

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

第1回（議事録）

日時：平成27年6月30日（火） 13:30～15:50

会場 市役所東館4階 第1委員会室

1. 挨拶

（市長）

- ・お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略、これは率直に言って、国からの交付金に直結している。全ての自治体が策定することになるので、明らかに自治体間競争をするということになる。皆さま方は、この豊明を支える全ての各団体、企業の方にお集まりいただいているが、地域の資源を如何に活かし、人口問題や、少子高齢化社会に対する問題等を解決していく、そういった計画をきちんと作れるところに交付金があるといったものである。
- ・この会場に、豊明市の街づくりに欠かせない、団体、企業の方にお集まりいただいている。それぞれのところで、少子高齢化の問題、人口減少の問題等を考えていらっしゃると思う。それぞれ非常に影響力があるので、皆さまのところだけではなく、皆さまの事業は豊明市全体に波及する。皆さまにとってメリットのあること、それが豊明市民全体にとってメリットのあること、そういったことをどんどん提案頂きたい。まち・ひと・しごと創生総合戦略の委員会を何回か開催するにあたり、皆さまにはいろいろとご苦労をおかけし、色んな資料を作っていただくことになるが、ある意味、この委員会を利用していただき、ビジネスチャンスと捉えて頂き、積極的に提案を頂ければ幸い。それが、結果として豊明市民にとってプラスになっていくと確信している。よろしくお願いします。

2. 議題

（1）委嘱状公布、委員長等の選任

（司会）

- ・続いて、市長より委嘱状を交付する。本来であれば、委員の皆さまお一人ずつに交付するところだが、本日は代表して野村和広様に御渡しをする。

（市長）

- ・委嘱状を交付。

（司会）

- ・他の委員の皆さまには机上にてご用意させていただいたので、ご確認をお願いしたい。本日より約3か年の任期となる。豊明市の創生総合戦略の策定及び推進にお力添えをいただくことになる。よろしくお願いしたい。
- ・初回となるので、皆さま方から自己紹介を頂きたい。次第の裏面にある名簿順に野村委員からお願いしたい。

(野村委員)

- ・JA あいちが豊明管内に4つほど施設があるが、私はそちらの豊明基幹支店長という役目である。農業や不動産については、私の配下ではなく、私の業務は金融、調査業務等である。皆さま方と色んな協議をさせていただく中で、創生総合戦略を進めていきたいと思っている。

(酒井委員)

- ・豊明市商工会副会長の酒井です。日頃から豊明市の商業、工業の発展のために、頑張っている。

(坪井委員)

- ・ホシザキ電機総務課の坪井です。私どもの会社は豊明で操業しており、地域貢献に非常に造詣が深く、できるだけお役に立つようにということを考えている。皆様と一緒に勉強させていただきながら、お役に立てること、あるいは豊明市民として市のお役に立つようなお話、勉強をさせていただきたいと思っている。

(安藤委員代理(岸氏))

- ・名古屋鉄道安藤の代理の岸です。日頃は鉄道をご利用いただきありがとうございます。公共交通の面で、是非、ご提案等々できればと思っている。

(竹内委員)

- ・独立行政法人都市再生機構中部支社住宅経営部の竹内です。中部支社ということで、主に東海3県を中心として事業を行っている。豊明市には豊明団地、前後駅周辺にも2つほど賃貸住宅を管理している。日頃から豊明市さんとは、様々な分野で協力・連携をさせていただいているところである。戦略の策定にお力になればと思っている。

(岩田委員)

- ・中部経済産業局の岩田です。日頃は経済産業行政に色々ご協力をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。今回の各地域の戦略策定にあたって、各省庁がコンシェルジュという形で相談を承ることになっている。今日、鈴木も来ているが、私と鈴木は、経済産業省の愛知県の各自治体のご相談に応じるコンシェルジュをやっており、私はそのリーダーとして今回この場にお呼びいただいた。他の省庁の案件も色々ここでは議論されると思う。国の機関の横のつながりで必要があればそういった点でもお役に立てればと思っている。

(飯田委員代理(松井氏))

- ・愛知県企画課の松井です。今日は課長の飯田の代理で出席させていただいた。愛知県でも人口ビジョンと総合戦略の策定を進めており、7月中には人口ビジョンの案と戦略の骨子をまとめていきたいと考えている。できるだけ速やかに、市町村の皆さまには情報提供をさせていただきたいと思っている。

- ・最終的には秋を目処に全体をまとめていきたいと考えている。市町村の皆さまとは、5月に一度、6地域で意見交換会をさせていただいたが、8月頃にも2回目の意見交換会をさせていただきたいと思うので、よろしくお願いいたします。
- ・市町村が主役ということで、この地方創生がある。県としても一緒になって取り組んでいきたいと思う。

(星長委員代理(金田氏))

- ・学校法人藤田保健衛生大学の学長の星長の代理で参った金田です。微力ながらお役にたてればと思うので、よろしくお願いいたします。

(根尾委員)

- ・桜花学園大学の根尾です。専攻は観光を専門にしている。以前に民間で実務の経験があり、今は大学で教えている。観光を通して、人づくり、まちづくり、国づくりに少しでも貢献できればと思っている。

(小川委員長)

- ・愛知教育大学の名誉教授の小川です。3月までは教授をやっていたが、3月いっぱい退職し、名誉教授ということでやっている。専門は住居学、住宅のことをやっている。元々は建築の出身である。10年ほど前になると思うが、豊明の住宅マスタープランのお手伝いをさせていただいた。川を渡って向こうにある大学だが、度々学生と一緒に豊明にきて、色々な食事や打ち上げ等をやっていた。

(川口委員)

- ・名古屋銀行豊明支店支店長の川口です。地域密着を掲げている地方銀行として、金融機関の立場でお役にたてればと思っている。

(鈴木委員)

- ・連合愛知尾張東地域協議会で副代表を仰せつかっている。出身はホシザキ電機で、支部長をやらせてもらっている。今日、坪井が来ているので、ホシザキからの話は坪井がすると思う。連合尾張東ということで、瀬戸・尾張旭の方から豊明までの管轄の副代表が各市町村にいて、私は豊明担当である。今日の話の中で他の地域も出てくると思う。地域のいいところ悪い所があると思うので、そのあたりがここでしっかり議論していけるように協力させていただきたい。

(前田委員代理(黒柳氏))

- ・中日スポーツのレース部長の黒柳です。部長の前田の代理で参った。10年、競馬記者をやらせていただいている。中日スポーツにとっても、中央競馬は大切なコンテンツの1つだと思っているので、何か協力できればと思っている。

(近藤委員)

- ・近藤恵子です。市民公募で委員となった。市民目線で意見を言っていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

(司会)

- ・本日はアドバイザーとして、地方創生コンシェルジュの鈴木様にもお越しいただいている。一言お願いしたい。

(鈴木アドバイザー)

- ・中部経済産業局総務課の鈴木です。地方創生コンシェルジュという正式に内閣府から辞令が出ているのは、こちらに座っている岩田課長で私はサポート役。私はずっと東郷町に住んでいて、今は日進にいる。このエリアに住んでいるということで、サポート等をさせていただいている。豊明の競馬場も小さい頃にパドックで遊んだり等、つながりもある。今後ともよろしく願いしたい。

(司会)

- ・続いて、市の職員を紹介したい。

(職員)

- ・各自あいさつ

(司会)

- ・続いて、今回の総合戦略策定のお手伝いをさせていただいている三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングの紹介をしたい。

(MURC)

- ・各自あいさつ

(司会)

- ・次にこの委員会の委員長を選出したい。推進委員会の設置条例第5条に基づき、委員長は委員の互選によって選出することとなっている。どなたかご推薦いただけるか？

(酒井委員)

- ・私は名誉教授の小川先生が適任かと思うので推薦したい。

(一同)

- ・異議なし

(司会)

- ・拍手をもって賛同いただいたので、小川委員お引き受けいただけるか？

(小川委員)

- ・推薦をいただいたので、やらしていただく。よろしくをお願いしたい。

(司会)

- ・ありがとうございました。小川委員には座席の移動をお願いしたい。
- ・委員長が決定したので、職務代理は委員長が指名をすることとなっている。小川委員長の方から指名をお願いしたい。

(小川委員長)

- ・僭越ではあるが、豊明についての色々なことを御存じではないかと思い、野村委員にお願いしたいと思う。

(野村委員)

- ・やらせていただく。

(小川委員長)

- ・では野村委員にお願いしたい。

(司会)

- ・野村委員には席の移動をお願いしたい。
- ・委員長よりあいさつをお願いしたい。

(小川委員長)

- ・先ほど豊明市の住宅マスタープランを10年ほど前にやったのではないかと話したら、伏屋さんから20年前だと言われ、月日が経つのは早いと思った。
- ・住宅マスタープランは、住宅の計画を作ることだったが、実際には、居住ということで、人が生活しやすい住宅をどのような作っていくかという視点で検討させていだいたと思っている。とてもいい計画ができたとは思っている。
- ・今回の場合でも、人というのが中心にある。人の生活、豊明市民の生活がどのように良くなっていくのか、そういう計画を作っていきたい。生活をする上で、まちや環境、仕事などがうまくフィットするような計画が作れていけばいいと思っている。人を大切にしていくということは、基礎自治体、市にとっての大きな仕事だと思う。そういった意味で、色々な面の環境を見ていただく計画が出来ていけばいいのではないか。
- ・今回のような委員会の検討が出てくるということは、大都市東京と地方とのギャップが大きくなりすぎたということが根源にある。その原因や解決策について、データとしては、広く、全国的に進めてことが必要だろうと思う。
- ・しかし、計画を作っていく上では、豊明を中心として、豊明に住んでいる人の立場にたって、この街をどのようによくしていくのか、そういった地域的な視点から作っていくことができると良い。その時には、市民の意見や考え方が反映されるような計画を作っていくことが本当は必要だろうと思っている。今回の委員の中でも、住民代表がお1人

というのは、ちょっと寂しいという気がするが、アンケート調査や色んな検討会のところで、市民とスタッフ、意見を掘り起こしていく等やっていくことができるような委員会に出来たらいいと思っている。

- ・先ほど市長からも話があったが、この委員の方々はそれぞれの分野のエキスパートである。そういう意味では、市民とは違い、色んな知見をもっていच्छやる人という財産だろうと思うので、それぞれの方の提案を出していただき、よりよい計画を作っていくことができると良い。

(司会)

- ・続いて、市長より委員会に対して諮問をする。市長から小川委員長に諮問書を御渡しするので、小浮市長前へお願いしたい。

(市長)

- ・豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員長小川先生、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略について諮問、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置条例第2条に基づき、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、貴推進委員会の意見を求めます。どうぞよろしくお願いします。

(司会)

- ・委員の皆さまには諮問書の写しを後ほど配付する。
- ・ここからの議事進行は委員長にお願いしたい。

(2) 推進委員会の公開について

(小川委員長)

- ・議題に入っていきたい。お手元の次第の順序に沿って、行っていきたい。(1)は終わったので、(2)の推進委員会の公開について審議したい。事務局から、説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・資料②説明

(小川委員長)

- ・ただいまの説明、提案に関して、質問・意見はあるか？
- ・資料②1のところで、推進委員会が判断した場合には公開しないこともあるという項目があるが、公開が原則であるということになっている。公開でよいのか？

(一同)

- ・異議なし。

(小川委員長)

- ・では、これからは公開でこの推進委員会を行っていくということにさせていただきたい。
- ・取扱要領の通りとして、傍聴の方の人数は、最大 15 名だが、今日は 6 名お越しいただいている。今後は、最大 15 名ということである。
- ・では、公開については以上のとおり行いたいと思う。
- ・では、本日の傍聴人の方に入場をいただく。

(3) まち・ひと・しごと創生について

(小川委員長)

- ・議題 3 まち・ひと・しごと創生について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・説明については、当委員会の地方創生コンシェルジュ愛知県リーダーの岩田委員をお願いしたい。

(岩田委員)

- ・これまでの国の動きと、なぜ今回地方創生で自治体さんごとにビジョンを作るということになっているのかという流れについて簡単に説明させていただきたい。
- ・資料③説明

(小川委員長)

- ・国（東京）の動きと地方の動きということで、色々な大きな問題をご指摘いただいた。特に人口ということで、大きな問題があるというご指摘だったと思う。資料③について、ご質問・ご意見等はあるか？

(近藤委員)

- ・今の説明を聞くと、名古屋圏は人口は増えも減りもししていないということで、この地域は、他の地域から人口を呼びこむような施策をしてもいいのかどうか。そのあたりはどのように捉えているのか？

(岩田委員)

- ・呼びこんではいけないということはない。今は人口減少はそれほど顕著ではないと思うが、将来的にはやはり人口は減っていく。それに対し、今のうちから人を呼び込むという施策も大切だし、何よりこの地域にいらっしゃる方が、安心して子育てができるような環境づくりもより需要ではないかと考えている。

(小川委員長)

- ・東京には異常なくらい人口が集中している。今は東京に行っても、とても拡大してしまっている。私も東京出身なのだが、昔だったら住まないような東京湾に住宅が建っている。どうして皆東京に人が行くのかという原因について、何か検討されていることがあれば、もしくは岩田さんの意見でも。

(岩田委員)

- ・東京から来られた方に聞くと、例えば、色々な刺激や人や出会いや魅力が東京に集積しているのは客観的な事実である。特に若い人にとっての魅力だと思う。そういう方々が戻ってこればいいが、そのまま東京にいるということが、今起きている現象である。UFJ さんにもお聞きしてもいいのではないかな。

(小川委員長)

- ・今ご指摘があったのは、魅力がある地域にしていくことが重要で、特に若い人にとっての魅力だということがあった。年収等もあるのではないかなと思うが、UFJ さんの方で何かお考えはあるかな？

(MURC)

- ・よく一般的に言われているのは、やはり仕事が地方にはないということで、こちらから出ていくということもある。大学生へのアンケート調査を行ったところ、愛知県は特にものづくりが盛んなので、働き口はあるのだが、一方で IT 系やデザイン等の高度なサービスについては集積が弱いというところもあり、そういうところを嗜好する人たちは、集積がある東京へ出ていくという傾向がみえる。
- ・この地域ならではの魅力もあるが、一方で東京にしかない魅力もあるので、多様な生き方というところの選択肢の中では、やはり東京の方を選ぶというところも当然出てくるというところである。
- ・中部圏全体でみると、愛知県はそうでもないが、他の岐阜、三重、静岡、長野を含めた全体でみると、男性は東京への流出というところが、流入に比べると少ないが、女性の方が流出が多くなっている。女性から見た職場、働き口というところについては、中部は少し弱い面があるということは、データから見えると思う。

(小川委員長)

- ・ありがとうございます。仕事の面での指摘をいただいたが、その他、資料③についてのご質問、ご意見はあるかな？
- ・豊明は豊明のデータを見ながらの検討になると思う。
- ・まずは課題を提示していただいたというのが、資料③の岩田委員の話であったと思う。

(4) 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

(小川委員長)

- ・次の議題(4) 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定についての説明を事務局よりお願いしたい。

(事務局)

- ・資料④～⑧説明

(小川委員長)

- ・今、色々なことについて説明があったが、こんなことを委員会で行っていくという説明であった。全体を通して、どこからでもいいので、ご質問・ご意見があればお願いしたい。

(鈴木委員)

- ・MURCさんにおうかがいすればいいのか、岩田委員におうかがいすればいいのか分らないが、A4横の強み、弱みの資料について教えていただきたい。このような委員会は豊明市で初めて立ちあがったが、他の市町で先行してやられているところがあれば、それを教えていただきたい。強みと弱み、両方克服するのが一番いいと思うが、どうしても両方やるとどちらかに力が偏り、なかなかうまくいかないのではないかな。もしかしたら強みを伸ばした方がいいのではないかな。克服すべきところはあると思うが、強みを伸ばした方がいい場合と、弱みを克服した方がいい場合があるのではないかな。野球選手のように代走だけで活躍する方もみえる。そういう感じで、いいところを伸ばすことが、その街にとっていいことなのか、弱いところを平均点まで持っていく方がいいのか、どちらの方が成功例があるのか、そういったことがあれば教えていただきたい。

(岩田委員)

- ・SWOT分析は色々な場面でやられている。今回の地方創生に関して言うと、国から自治体さんをお願いしているのは、地域の資源や魅力をもう一度見直して、それを活かした地域づくりをやりましょうということである。
- ・この中で、この4つのカテゴリの弱みをどうするかというのは、弱みの中身の種類にもよる。決定的な弱みでどうしてもそれがというのはあるかもしれないので、あまり一般論では言えないと思う。短期間で成果をあげていくというようなことを考えると、まずは強みを見ていくというのが、一般的なやり方ではないかと個人的には思っている。
- ・他の地域の立ちあがり状況については、ちょうどこの時期に各市町さんも同様の委員会を立ち上げている。これからこういったものが、各市町でできて、先ほどご説明のあったようなスケジュールを作りながら、順次やっていくことになる。地域資源は、その街その街で違うものだとこういった会議に出て感じている。それをいかにうまく作っていくのかということだと思う。

(MURC)

- ・SWOT分析は、その地域によって違うので、どれが成功しているということは一概には言えない。強み、弱みどちらを伸ばすべきかということによっては、やはり地域ごとになる。例えば、手元の資料にあげている南海トラフというところが脅威としてあり、そこが弱みとして都市のイメージにかなり影響があるという時には、かなり危機的な弱点になるので、そこは克服していかないといけないので、弱みに注力していく必要がある。逆に、その点については地盤もしっかりしているし、海からも遠いので影響は少ないということであれば、通勤環境に恵まれているとか、高齢者等に良い住宅環境を用意できるということであれば、そういったことを伸ばしていくことになる。まだ、表面的

に分析しただけなので、こちらについてはヒアリング等を通じて深掘りしていった上で、こちらの委員会でもご検討いただき、どの強みを伸ばすのか、どの弱みを克服するのかについて、ご検討いただきたい。

- ・他地域についても、我々手伝いをしているところがあり、あまり他の地域のところの進行状況を詳しく教えられないが、先ほどのパンフレットにもあった4つの分野で、子どもを育てるとか、雇用を創出する等、国から示されている4つの視点を中心に議論しているところが多い。そこにこういったSWOT分析をいれて、豊明市さんの特徴というところを加味していくことになる。

(小川委員長)

- ・現在のSWOT分析自体が、第一段階なので、この委員会の中で、それぞれのご意見をいただき深めていき、市の方針を決めていくことが必要だろうと思う。
- ・例えば弱みの中でも、市域が狭く、新しい住宅供給の余力がない、しかしこれは日本全体の方針であるコンパクトシティにしていく、合理的な街づくりをしていくという方針には合っているので、新しい住宅地を開発する要はないのではないかという議論に結びついていくことになる。この内容自体を検討し、それを踏まえて市全体としての方針を検討していきたいと思う。
- ・この委員会で時間があれば、皆さんお一人ずつにご意見をうかがいたい。

(安藤委員代理(岸氏))

- ・国の総合戦略の中で話が合ったが、国の人口予測は出ているが、豊明市さんのものは？予測が出ていたら教えていただきたい。

(事務局)

- ・同タイミング進めている第5次総合計画の方でお示しできる資料があるので、間に合えば、本日用意させていただきたい。間に合わなければ後日提供したい。

(小川委員長)

- ・P42 をみると、人口は大体横ばいになってきたということで、増えも減りもしない現状維持を維持していければいいという感じか？

(事務局)

- ・もちろんそうありたいが、やはり明らかに日本全国で減っていき、低位推計だと4000万人くらいになるという推計もあるので、人口増は目指していきたいが、それがずっと続くとは思っていない。どこかで下がってくることを受け入れて、いい形のまちづくりをしていきたい。そういった考え方で総合計画の人口推計を作っているの、資料が届いたら説明したい。

(小川委員長)

- ・P42 の1と2で、上が日本人、下が総数になっているが、これは何か意味があるか？下

は外国人を含んでいるということか。

(MURC)

- ・上のグラフは住民基本台帳となっている。住民基本台帳は基本的に日本人の方の人口動態で毎年取得できるものとなっている。下は国勢調査で5年毎の調査となっており、外国人を含めた形の数値になるので、若干上の数値と異なっている。単純比較となってしまうが、2010年の上のグラフは66,202人、下のグラフは69,745人となり、約3,000人の外国人の居住していたということになる。

(根尾委員)

- ・P46の7を見ると、女性と男性で20～24歳のところを見ると女性は、この5年間に大きく減っているのだが、男性は違う。男性と女性でこれほどの差が出てきているのは、注釈もあるが、いまいち理解できない。何か他に理由はあるか？

(MURC)

- ・15～19歳→20～24歳というところについては大学生の進学というところが考えられる。女性については、20～24歳の層が5年後に減少しているので、就職もしくは一旦こちらに進学した人が、実家へ戻っていることが考えられる。具体的に、こういった要因で流動が起こっているかはデータからの推測のみになってしまうが、一般的には就職や結婚、出産、住宅取得というところが転機になると言われている。そういったところに該当する年齢層というところではないかと分析をしている。男性よりも、女性の方が結婚する年齢が低いので、そうすると男女で若干の差が出てきて、若い女性の流出の割合が高くなっているという傾向が出てきていると考えている。

(根尾委員)

- ・5年経ったら、下の年齢層の人たちが同じようにあがるので、マンモス大学ができたり、大きな企業ができればそこで波動が出てくると思うが、そうでなければそんなに変わらないと思ったので、何か他の要因があるのではと思った。

(MURC)

- ・もう1つの推測としては、豊明はものづくり関係で就職されている方も多いということで、男性を雇用する企業が多いため流入が多い。ところが、年齢的にみれば、外に出ていくことが多い年齢で、女性はその傾向が強く、マイナスとなっているのではないかな。

(小川委員長)

- ・20代が減少するのは説明できるが、その後の25歳～30代前半の女性が減るあたりは、それでは説明しきれない気がする。男性と同じような動きをしてもいいのではと思う。そのあたりの移動調査(転入・転出)をとっていただくことを課題としたい。
- ・また、根尾先生がおっしゃったように、別の年次を取得してみても、同じような現象が起こるかどうか、そちらについても検討頂ければと思う。特に、若い年代での増減なの

で、そういう意味でもここは重要なポイントではないか。

- ・今、配っていただいたグラフは、将来の人口の推計（推移）である。こちらについて、事務局より説明をお願いしたい。

（事務局）

- ・こちらが本市が考えている人口推計である。人口は住民基本台帳上の人口と、国勢調査で出てくる人口があり、住民登録をされていない外国人の方の差が出ると言われている。本市もその影響が強いので、住民基本台帳のデータよりも、国勢調査の方が少し多めに出る傾向が続いている。H22 年度までが実測値となり、H27 年度の棒グラフより右側が、推計値として示している。人口問題研究所がやっている人口推計は、国勢調査のデータ使って行っている。本市はこの 5 年の間にピークがあったということで、住民基本台帳の人口推計と大きく隔たりが出ているので、今の手元の資料は平成 22 年度までの国勢調査のデータに、住民基本台帳の趨勢を入れて出している。このデータを豊明市では使っていこうと思っている。平成 52 年の推計では、6 万人くらいまで減っていくことになる。また上の薄いところは 65 歳以上で、高齢化率は 30.4%ということで、かなり高齢化が進んでいく予測をしている。

（小川委員長）

- ・徐々に減少していくという予測になっているということ。
- ・P45 の豊明の人口増減の資料だが、豊明は社会減が多いので、職場等に改善すべき問題があるのではないかとということが読み取れる。一方、P46 の下の図では、2013 年のデータで 25～34 歳の女性は社会増となっており、上の図では同年代が減となっている。このあたり、矛盾しているのではないかと？もう一度検討した方がいいのではないかと？
- ・男性を見ると男性は社会増となっている。

（MURC）

- ・2013 年が特異値となっており、P45 の上の図を見ていただくと、紫が社会増減で、それまでマイナス続きであったものが、2013 年でプラスに上ぶれしている。これが、年代別でみると、住宅取得層と言われている 30 代前後の方がプラスに増えている。これがマンションの供給や住宅地の整備といったところが影響しているのではないかと。具体的に 2013 年にどのような供給が行われたかというところを見ながら分析する必要がある。
- ・ただ、全体的な傾向としては、社会減というところで進んでいると認識している。

（小川委員長）

- ・2013 年度の状況は一時的なもので、どこかの年代を狙ったマンション等の開発があったのではないかとということ。

（市長）

- ・それはあった。榎山台という前後駅から 1. 数キロのところに、大きな開発が行われた。ちょうどこの 2013 年に住人が入って来ている。

(近藤委員)

- ・ P46 の下の図の社会減の問題のところで確認をしたい。MURC さんが御存じがどうか分からないが、豊明は社会減だが、岩倉、知立、小牧、知多等、社会減に対して自然増が多い所は、UR の大型団地がある街になっている。そのあたり統計的なものはあるか？大型団地があることにより、例えば結婚した時に 2 人で団地に入り、子どもができて 3 ～ 4 人になった時に、引っ越してよその町に行くということがある。そのあたりを考えると、この数字をこのまま検討するのでは、ハードルが高くなるのではないか？そのあたりの分析は何かしているのか？

(MURC)

- ・ 名古屋市周辺の都市の人口動態というところも含めて分析をしていく予定である。今、ご指摘いただいたことは、そちらで分析をしていきたい。特に UR についてのご指摘があったので、そういったところの要因も含め、ご提示をできればと思っている。

(小川委員長)

- ・ UR についての話が出たが、何か思い当たることはあるか？住民が減っているとか、空き家が出ているとか。

(竹内委員)

- ・ 実際に、中部支社だけで UR の住宅は 57,000 戸ほどの賃貸住宅を管理しており、豊明市内には 2,300 戸ある。全体として契約中でない住宅の数は、徐々に拡大をしている。ただし、それが、こういった統計的なものに顕著にリンクしているかどうかについては、ちょっと分からない。お住まいの方の属性という意味では、数よりも年齢や所得等の部分については、かなり傾向が強いと思う。豊明であれば、お住まいの方の高齢化が進んでいることは間違いない。特に高度成長期、40 年代、50 年代に建設した住宅については、お住まいの方の高齢化が進んでいる。世帯数そのものの減少というよりも、単身居住の方が増えているのは間違いない。

(小川委員長)

- ・ UR だけではないということが、数字的にはおさえられるだろう。個別の状況としては、UR はとても大きな資産だと思うので、それをどのように市として活用していくかということが重要だと思う。
- ・ スケジュールが示されているが、それについての質問はいかがか？随分、急がなくてはいけない状況だと思う。交付金を得るための事業提案については 8 月末までに急いでやらないといけない。上下に円があるが、下の円については B-7 施策提案の募集（アイデアレベル）ということで、アイデアを早くこの委員の中から出してほしいということ要望されている。第一段階はそこである。上の円については、今議論してきたような人口であるとか、市民調査をして詳しく実態を調べ、今後の方針をたてていくことにより、実態に則した計画を作っていくことになる。特に、我々委員に求められているのは、工

程表の下の円である。

- ・色々なデータが示されているが、これを読み込んでいき、SWOT分析のようなものをまとめなければいけないというのが、我々に求められていることである。
- ・事業の提案については、どのようにまとめていく予定か？SWOTについては、皆さんに一巡、ご意見をいただいて、参考にしていただければと思う。

(事務局)

- ・資料⑦P36 に、事業のアイデア提案ということで、書式を予定させていただいた。そちらについて説明をさせていただきたい。

(小川委員長)

- ・資料⑦の事業アイデア提案書についての質問はいかがか？

(飯田委員代理(松井氏))

- ・新型交付金の追加提案について、基本はソフト事業である。ハードについてはどうしてもそれが必要で、なおかつ全体の額の半分以上等、細かい設定がある。箱モノはダメだが、備品は少しなら大丈夫とされている。そのあたりは豊明市さんが整理されるということだと思う。予算は 3000～5000 万円くらいだと思うが、事業は2事業くらいの設定か？

(事務局)

- ・そうである。

(飯田委員代理(松井氏))

- ・愛知県でも追加提案を検討しているので、愛知県の方にも提案があればお願いしたい。

(小川委員長)

- ・期限が7月24日(金)である。あくまでアイデアということで、提出していただきたいというお願いだと思う。
- ・では、皆さんのお考えについてお聞きしたい。アイデアとして出されるのは、それぞれのご専門のところでは出されると思うが、先ほどのSWOT分析を意識しながら、豊明市に対する印象、日頃思っていること、提案等を皆さん一巡してお聞きしたい。

(星長委員代理(金田氏))

- ・子育て、老人問題について取り組んでいきたい。
- ・まち・ひと・しごと創生ということで、今から色々なデータが出てくると思う。先ほどからお聞きしていると、活性化する中での雇用をあげて、住民の皆さんの定着ということが一番の目標であれば、我々、藤田保健衛生大学としては、今やっている子育て、老人、災害問題のうちの、自分たちの強みの中での子育て、老人問題について、取り組んでいきたいと思っている。今、UR、行政と組みながら、豊明団地等を行っているが、

コンパクトシティというものを考えるならば、地域にどうやってそれを持って行くか、それをもう少し大きな事業として、豊明市の中に持っていく様な事業展開をお手伝いできるのではないかと考えている。

（小川委員長）

- ・豊明市として一番大きな事業だと思うが、今URの中でやられていることを、いくつか市の中で拠点を作って、モデルとして展開・ネットワーク化していくことがとても大きなアイデアになるのではないと思う。

（根尾委員）

- ・観光が専門である。観光は点ではなく面（広域）で考えないといけない。豊明なら豊明だけ、と考えると無理。周辺も含めて考えていくことが必要である。ここ数年、インバウンドが大きな話題となっているが、あまりインバウンドだけにこだわらずに、国内の交流人口をもう少し考えた方がいいのではないかと感じている。

（川口委員）

- ・先ほどのSWOT分析だが、我々が考えているものとあまり大差はない。MURCさんがつくられたものだろうと思うが、豊明市さんも今まで同じような考えで進んできていると思う。強みの部分を如何に活かすかと同時に、弱みの部分も工夫をしていかないと、ある程度両構えのところが必要ではないか。
- ・人口の問題については、即効性をもって対応するものと、長期的な視点で考えていく部分を視野にいれていかないといけない。
- ・P46の資料の中で、2013年の社会増減が出ていたが、先ほどのコメントで、マンションの整備が行われて人口増があったという話があったが、これがヒントになるのではないか。
- ・豊明市には、我々からみると、狭いといいながらも有効活用できる土地があるのではないか。どう活かし、どう開発していくか、市もそうだし、地元の市民の方々の協力も必要となってくるし、住宅だけではなく、事業所、近隣にはトヨタの関連等の大企業があるので、そういったところに携わる企業をいかに呼びこむかも必要となってくるのではないか。
- ・厳しい言い方かもしれないが、ちょっと豊明市さんは閉鎖的なイメージがあるので、開放することを考えないといけないのではないか。名古屋市の近隣でありながら、この資源を生かし切れていない状況にあるところを変えていかないと、将来的なビジョンが描けないと思う。近隣に、刈谷、安城など、参考にしていいかどうかは分からないが、人口が増えている市町村があるので、そことの違いは何か。これまでどういうことをやってきていて、こういう結果になっているのかを考えなくてはいけないし、対応策についても重要になってくる。我々委員、市役所だけが考えていてはいけない、市民の方全員が、真剣に考えていただけるように情報を公開し、考えていく覚悟、決断が必要になってくると思う。今後、委員の皆さまの活躍が非常に重要になってくると思うが、皆で力を合わせながら頑張っていきたい。

(小川委員長)

- ・今の企業の呼びこみということについて、もう少し具体的なことを書いていただけたらと思う。

(鈴木委員)

- ・先ほどの質問させていただいたが、このSWOT分析は、弱みはうなづくところばかりである。逆に、強みのところがよく分からない。おとしから行政改革委員会のメンバーにも入っており、同じような提案をしてほしいということで、提案をしたのだが、正直、これに書いてあるものと同じである。これを分かって、これからやっていくというところでいくと、弱みの方を克服した方がいいのではないかとイメージしている。
- ・住宅の話でいくと、URを半分壊してほしいという乱暴な意見を行政改革委員会をお願いをした。壊したところに新しく、若い夫婦が入れるようなものをつくる。今は古くて若い人が入るイメージが無い。半分は、残して高齢者や外国人のためにという提案をさせていただいたが、色々国や県の方とやらなくてはいけないということで却下された。しかし、そのあたりを含めて検討していかなければいけないと思っている。
- ・日進の市長さんともお話する機会があるのだが、日進は人口が増えている。日進がやったことは、若い世代を入れるのではなく、独身者を取り込むということをやった。言い方は悪いが、独身者は税金を納めてくれるが、税金は使わない。子育て等をすると税金を使ってしまうので、まずは第一段階の取り組みとして、独身者を入れることをやった。企業誘致ではないが、企業の独身寮を作ってもらったりすることに力を入れた。今、やられているのは、今度はその人たちが結婚した後に、いかに日進に残すかということである。そういう考えも必要なのではないか。他の市町でやっている良いところはどんどん取り入れるべきだと思う。豊明市としても、そういった施策や方向性を出していただけると色々な案が出せると思う。
- ・私も、他の市町の状況をここで発信しながら、いいものにしていきたいと思っている。

(前田委員代理(黒柳氏))

- ・難しいことは分からないのでイメージだけで申し訳ないが、中京競馬場もそうだし、古戦場にしても、全国的にメジャーなものだと思うが、もったいないことに、東京の人からすると、それが両方とも豊明にあるということ知らない人多すぎる。通勤環境も恵まれているし、名古屋にも名鉄1本でいけるので、豊明のブランドイメージを高めれば、もっと興味をもってもらえると思うし、豊明に住みたいという人が多くなってくるのではないかな。単純かもしれないがそれは大事なことではないかと思う。

(近藤委員)

- ・豊明の町から人を逃がさない、集合住宅や賃貸に住んでいた人が豊明に残る施策を進めていくべきだと思う。強みの中に通勤環境に恵まれているとあるが、実際、駅からは恵まれていると思うが、例えば私は市役所の傍なのだが、1号線をこえて、名鉄をこえて行くところでは、前後から名古屋駅に行くよりも、豊明に着いてからの通勤時間の方が

長い。環境に恵まれているという時に、豊明市全体を考えたら、駅までのということが1つあるのかなということと、前後に人が集中して、豊明に人が行かないというのは、料金を比較すると豊明が上がるということがあるので、もし、豊明駅と前後駅から名古屋駅までの料金が同じなら、人はもう少しばらつくと思う。子どもが刈谷へ通学している時は、豊明からの方が料金が安いので、うちは豊明から通っていたが、名古屋へ向かうなら、前後駅からの方が安いので、今度は前後からになる。それは毎日の生活のことなので…。名鉄さんに言っても仕方ないかもしれないが、本当に豊明と前後が同等なら、もう少しバランスよく人が動くような気がする。

（鈴木アドバイザー）

- ・上乗せ交付金についてだが、やはり、まち・ひと・しごとということで、市町村の方が中心となって前回の交付金も申請されたため、どうしても子育て支援とか、そういったことに寄っていってしまうということがある。できれば、交付金を出し続けることがなかなかできないので、上乗せ交付金、これから要求していく 28 年度の新型交付金を使ってモデルの事業をつくっていただき、ひいては自立化をしていていただきたい。
- ・今日の議論を聞いていても、産業政策は難しいかもしれないが、そういった視点も考えていただき、アイデアをだしていただきたい。
- ・地方創生に係る参考事例をホームページで公表している。「シェア金沢」という高齢者と学生がうまく連携している事業もある。
- ・先ほど観光のところで面的な話ということがあったが、上乗せ交付金の場合は、官民連携というか、民間の方も自治体に入りこんでいくような連携方策や、他市町村との連携（広域連携）も取り組んでやっていく方法がある。連携して申請を出す方法もあるので、そういった部分にも取り組んでいただきたい。

（小川委員長）

- ・大きなヒントだね。市民の力を活用することが大切なことだろうと思うし、それが持続していく活動にもなる。

（飯田委員代理（松井氏））

- ・県内の 54 市町村の方と意見交換をしたが、一番多かった意見として、空き家対策があった。人を増やす時には住宅が必要だが、そもそもの中心市街地が空き家だらけなので、新たな市街化に手を入れることができない。今、空き家の関係は、法律も施行されており、豊明市さんがそういう悩みをお持ちかどうか分からないが、住宅対策をお考えの時はご検討をいただきたい。
- ・資料の S W O T 分析を見ていると、機会 (Opportunity) のところで、コミュニティビジネスの担い手が増加しているというところがある。もし、豊明市さんでコミュニティビジネスの担い手が増加しているということであれば、他の市町村に聞くと、こういう人がいないという話であるので、機会があれば、是非これを活かしていただけると、モデル的な取り組みになるのではないかと期待している。

(岩田委員)

- ・豊明市は名古屋市と西三河の製造業の集積地の間にあって、立地環境は恵まれている。それをもう一度見直して、いいところを発掘しながら伸ばしていけるといいと思う。製造業も立地が可能だし、ある意味サービス業も魅力的な場所だと思う。今、話にあったような市民のビジネス、そういったマイクロビジネスのようなものの発祥の可能性もあると思う。
- ・私は経済産業省からきているので、どうしても産業寄りの話になってしまうが、働く場を地元につくることで、人がそこに留まり、あるいは、人が豊明に来ていただいて、また新しいビジネスが生まれる循環が、小さい循環ながらもいくつか出来ていける可能性があると思う。
- ・大学もあり、基幹病院もあるということで、データ時にも特徴的なところが出ていると思う。先ほどから話に出ているように、住宅団地と連携した新しい取り組みをされているということを聞いている。そういったところを公共でやる、あるいは、大学で研究や学習等、教育の一環でやるという部分もちろん重要だと思うが、ある意味そこを卒業したら、できるところからビジネスにしていくという発想もあるかと思う。

(竹内委員)

- ・URの団地についてのご意見もいただいたところである。賃貸住宅のポジショニングがかつての高度成長期から現在にいたるまでの間に、かなり変わってきている。実際にお住まいいただいている方が高齢化しているという話は先ほどもしたが、世帯数としてはそれほど減ってはいないが、やはり長くお住まいいただいている方が、そこにずっと暮らしていच्छる。そういった方々に、終の棲家としてお住まいいただける環境を提供していきたいということと合わせ、やはりそれだけでは、団地の活力がどんどん低下してしまうので若い方に入っていただきたいということで、ミクストコミュニティということで、若い方向けの住宅の提供、内装やデザイン等、また家賃に関しては若い方については少しお安くといった取り組みをさせていただいている。色んな形で、豊明市さんや藤田学園さんと連携した取り組みを展開しているが、それで劇的に環境が変化しているかという、小さな一歩であり、少しずつやらせていただいているところである。団地を含め、私どもとしてはお住まいいただいている方に、どういった環境を提供するかということで、日々考えているところであるが、逆に、そういったフィールドを活かして、ここで議論をいただくような事業の実験の場のような形でご利用いただくようなこともあるのではないかと。団地だけではなく、前後駅にパルネスという商業施設があるが、あちらも関係会社が運営しているビルなので、そういったものを活用した事業など、色々とアイデアを出していただく実験のフィールドとしてお考えいただけたらと思う。
- ・URから今何か具体的なアイデアがあるわけではないが、URならではの環境があるので、そういったものも委員の皆さまにご検討いただければと思う。

(安藤委員代理(岸氏))

- ・先ほどは貴重なご意見ありがとうございました。そういったお悩みがあったとは知らなかった。運賃については、私は専門家ではないので明言はできない。

- ・通勤環境に恵まれているという話があったが、近藤委員ご指摘のとおり、電車はいいと思うが、そこからのアクセスが非常に弱い。今日は前後駅から歩いてきたが、20分かった。豊明駅と迷ったのだが、結局前後駅を選んだ。そのあたりは、バス含めて改善が必要だと思っている。
- ・私は、今は名鉄にいるが、出身は関西である。名古屋市に住んで15年くらいなので、豊明市のこともあまりわからなくて勉強中である。今日は歩いてみようということで、駅から歩いてきた。15年住んでいるが、豊明市には何回来ただろう。車で通ったり、電車で通ったりくらいなので、やはり都市の魅力が足りないのかなと思っている。
- ・我々の視点からすると、駅が拠点というか、まちの顔を表していると思う。駅前の開発をもう少しできればいいのではないかな。なかなか1社では難しいので、行政やURと協力しながらできればいいのかなと思っている。

（小川委員長）

- ・駅から歩いて来てまちの様子をみる、とても積極的ないい委員さんだった。

（坪井委員）

- ・皆さんの話を色々とお聞きしたり、資料を拝見していると、今年度から先に向かっては、65歳以上の人口が増え、14歳以降の人口がどんどん減って来るわけだが、一番のボリュームゾーンの15～64歳のところがごっそり落ちていく、これが先ほどから皆さんの話にある男性であり、女性であり、一番いてほしい、まちを活性化してくれるであろう層の流出であろう。それに対して、企業として何ができるか考えるのだが、単純に雇用を増やすということは、こういった場でお話できる状況ではない。豊明市にある企業のどちらも状況は同じだと思う。
- ・その中でSWOT分析を見せていただくと、強みとして書いてある名古屋と西三河地区の間にある、これが実は弱みなのかもしれない。ちょっと目先を変えれば、すぐに名古屋市緑区で、地下鉄1本で勤めに行けるし、ちょっと足を延ばせば、今度は刈谷でトヨタ系の企業に勤めている方であれば、豊明から境川を越えるのは朝の渋滞が大変である。だったら、向こう側に住んでしまおうということで、もしかすると、強みであると同時にアキレス腱なのかなと思った。
- ・差し当たり、何が提案できるのかはまだ整理できていないのだが、先ほど岩田さんがおっしゃっていた安心して子育てができる環境等、どこかに特化した形でご提案させていただけるといいと思う。会社というよりは、個人的な意見になってしまうと思うが、そんな思いで拝見した。

（酒井委員）

- ・今坪井さんが言われたように、強みは弱みだと思う。商工会からの視点でいくと、商業をやっている方の廃業率は結構多い。移転ではなく廃業である。しかし新規の開業率もまんざらではない。商工会も微妙に増えている。
- ・強みといえば、やはり立地条件であると思う。インターもあり、学校もあり、病院もあり、花き市場もあり、古戦場もある。周りに比べると、豊明というのは、とてもいい環

境であると思う。それがあまり活かされないというのは、皆さん共通の認識だと思う。あとは、住工混在というのもネックだと思っている。中京競馬場から南に行ったところの住工混在もまだ解消されていないし、商工会も色々手をつくしたが、過去4年間動けなかったということがある。

- ・財政については、大規模企業、大規模店舗が最たるものだと思うが、それも芽が出ない。南のところでも、地権者の方が寄って開発を推し進めようとしたせつかくの機会も芽がつまれてしまったという経緯がある。商工会としては、大規模とまではいなくても、小中規模の店舗がくることは、市内の活性化につながっている。
- ・豊明市としては、4年くらいで発展会が消滅しており、5つあったものが今は2つとなっている。発展会が消滅するような市というのはあり得ない。それを考えると、商業の芽をもう少しのばしてやらないと人を呼びこめない。
- ・三崎発展会や、サンフラワー発展会さんは、独自に若い世代でもって発展をされているので、やはり若い人を呼び込むことがポイントではないか。高齢化社会であるが、若い人が動かないと市は活性化しない。前後駅などを見ていると、高校生、大学生は何千人も乗り降りしているが、その人が素通りで、学校と自宅を、前後駅を挟んで行ってしまうというのが非常にもったいない。若い人に発信できるような都市イメージが弱いのではないか。今は、コマーシャルの時代であるが、発信力が欠けていると感じている。市長＝営業マンと考えていただき、河村市長みたいに、どんどん豊明市を発信していただけると周りの目も向いてくるのではないかとと思っている。商工会としても、魅力ある町として花き市場を中心とした花のまち豊明や、B-1 グルメに向けて豊明ひきずりとかを、外部に向けて発信中である。市としてもバックアップしていただき、まずは発信力を養っていくことが大事だと思う。

(野村委員)

- ・農業協同組合という立場なので、農地の話をさせていただきたい。豊明の管内の農地は平成25年現在で523haである。そのうち、遊休農地が3.4ha出てきてしまっているとのこと。おそらく遊休農地は、今の農家の方の高齢化が進むにつれ、親から農地を相続して農業をやるとしても、勤めているとなかなかままならない状況になってくる。農地を再生していく意味でも、広大な農地が存在するので遊休農地や耕作放棄地が今後増えてくると思う。今後、農業を営む法人、資本をもった会社が農業をやれるような、農地を守っていくために、こういったものも1つの案としていいのではないか。
- ・土地活用、雇用促進という側面も出てくると思う。住宅供給ということだが、私どもの開発相談センターの方で、土地区画整理を手掛けさせていただいている。今はなかなか大きな土地区画整理はできないが、私は前後町に在住しており、前後町内にいくつか農地を持っている。実は、土地区画整理の話が出ており、私は発起人という立場で、12.69haほどの土地の交渉を行っている。面積のうち、仮同意が今8割集まっている。
- ・先ほど2013年に榎山台という住宅供給があったにより人口が増えたということがある。立場上、農地を守っていかなくてはいけないが、自分の子どもたちが果たして農地を相続していけるのかという不安があるので、宅地を供給することによって、豊明市の人口を増やしていく。前後町というのは、前後駅が豊明市の玄関口と言われおり、場所的に

も近い。公私混同のようで申し訳ないが、国からも少し助成がいただければと思っている。

(小川委員長)

- ・皆さんにご意見をうかがったが、豊明というのは随分強みがあると感じた。立地や環境、古戦場、花き市場、中京競馬場などの強みを活かしてきれていない、出しきれていないという意見であったと思う。
- ・今回の委員会はとてもいい委員会であると感じた。これを事業化して、コミュニティビジネスとして市民が参加できるように何か展開していけると交付金も得やすい。また、市民が入っていると継続性・持続性もある。そういったものを作っていければいいのではないかという印象を受けた。
- ・既にURと藤田学園でやられているような、住んでおられる方の要望と、それぞれの関わっている主体者のやりたいこと、専門性を活かしたものが出来て行けばいいと思う。
- ・発展会でも若い人が入ってうまくやっているところがあるという話があったが、そういったことが他にもあるのではないかと思う。いい例を見つけ出して、伸ばして、学んでいく、それが重要なことではないか。
- ・今日の皆さんのご意見を参考にいただき、アイデアとしてまとめて提出していただけたらと思う。その際には、全国でも行われている例も参考に頂けたらと思う。
- ・委員会の日程を確認すると、市がまとめて請求する時期をみると、皆さんに委員会の中でおはかりする時期がないように思う。ある程度事務局に任せていただく形でよいのか？
- ・アイデアを出された方については提出の内容についてご相談をしたり、野村さんや私については、再度まとめたものを報告いただいて承認することを約束いただき、お任せいただいてもよいのか？

(一同)

- ・異議なし

(小川委員長)

- ・ではそのようにしたい。

3. その他

(事務局)

- ・資料⑧説明（日程調整）

閉会

出席委員 野村和広、酒井克俊、坪井加寿代、安藤仁(代理)、竹内大輔、岩田則子、
飯田靖(代理)、星長清隆(代理)、根尾文彦、小川正光、川口弘志、鈴木
剛、前田真弓(代理)、近藤恵子

アドバイザー 鈴木康宏

欠席委員 大越俊則

市職員 市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、健康福祉部長、経済建設
部長、教育部長、議会事務局長、消防長

事務局 企画政策課長、企画政策課長補佐兼政策推進担当係長、
企画政策課職員 2 名

委託業者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 河合修治、本橋直樹

第1回 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 次第

日時 平成 27 年 6 月 30 日(火)
午後1時 30 分～
会場 市役所東館 4 階 第1委員会室

1. 挨拶

2. 議題

(1) 辞令交付、会長等の選任

(2) 推進委員会の公開について

(3) まち・ひと・しごと創生について

(4) 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

3. その他

◇配布資料

資料① … 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置条例

資料② … 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の公開等に関する取扱要領(案)

資料③ … まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

発行 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

資料④ … 策定スケジュール

資料⑤ … アンケート調査について

資料⑥ … ヒアリング実施について

資料⑦ … 事業アイデア提案書 【期限:7/24】

資料⑧ … 次回委員会の日程調整について 【期限:7/10】

参考資料… 豊明市の人口動向

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 委員

属 性		氏 名	役職等
1	あいち尾東農業協同組合	野村 和広	豊明基幹支店長
2	豊明市商工会	酒井 克俊	副会長
3	ホシザキ電機株式会社	坪井 加寿代	総務課長
4	名古屋鉄道株式会社	安藤 仁	事業企画部企画担当部長
5	独立行政法人都市再生機構 中部支社	竹内 大輔	住宅経営部長
6	日本中央競馬会 中京競馬場	大越 俊則	中京競馬場場長
7	経済産業省中部経済産業局	岩田 則子	地域経済課長
8	愛知県政策企画局	飯田 靖	企画課長
9	学校法人藤田学園	星長 清隆	専務理事・学長
10	学校法人桜花学園	根尾 文彦	桜花学園大学教授
11	国立大学法人愛知教育大学	小川 正光	名誉教授
12	株式会社名古屋銀行	川口 弘志	豊明支店長
13	連合愛知尾張東地域協議会	鈴木 剛	副代表
14	株式会社中日新聞社(中日スポーツ)	前田 真弓	レース部長
15	市民公募	近藤 恵子	
	地方創生コンシェルジュ (中部経済産業局)	鈴木 康宏	総務課総括係長

資料①

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置条例

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）を総合的かつ計画的に推進するため、豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(担当事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じて、次に掲げる事項について調査審議し、市長に答申する。

- (1) 総合戦略の策定に関する事項
- (2) 総合戦略の検証に関する事項
- (3) その他総合戦略に関し必要と認める事項

(委員)

第3条 委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 公募により選出された市民
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 関係機関及び団体の代表
- (4) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 委員長に事故があるとき又は欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶務）

第7条 委員会の庶務は、行政経営部企画政策課において処理する。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

資料②

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の公開等に関する
取扱要領（案）

1 会議の公開

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（以下「推進委員会」という。）の会議は公開するものとする。ただし、会議の内容を公開することが適当でないとして、推進委員会が判断した場合は、公開しないことができる。

2 傍聴者の人数

傍聴者は、市内在住又は在勤、在学の者を対象とし、その人数は、会議の会場に応じて定める。

3 会議の公開の周知

会議の開催日時、場所、傍聴者の人数は、「豊明市公式ウェブサイト」に掲載する。

4 傍聴の申し込み

会議の傍聴を希望する者は、事務局にその旨を申し込むものとする。

5 傍聴の遵守事項

- (1) 傍聴者は、私語や推進委員会に対する発言はできない。
- (2) 推進委員会が特に認めた場合を除き、会議の録音又は撮影はできない。
- (3) 会議の進行を妨げる行為が見受けられた場合、会長は、その者を退室させるとともに、次回以降の会議の傍聴を拒否することができる。

6 会議資料の取扱い

会議資料は、別に定めのある場合、又は支障があると認める場合を除き、傍聴者に貸与する。

7 議事録の作成及び公開

事務局は、会議の議事録を作成し、公開するものとする。この場合に、議事録は、出席委員の確認を受けるものとする。

8 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は会長が推進委員会に諮って定める。

9 施行等

この要領は、平成27年6月30日から施行する。

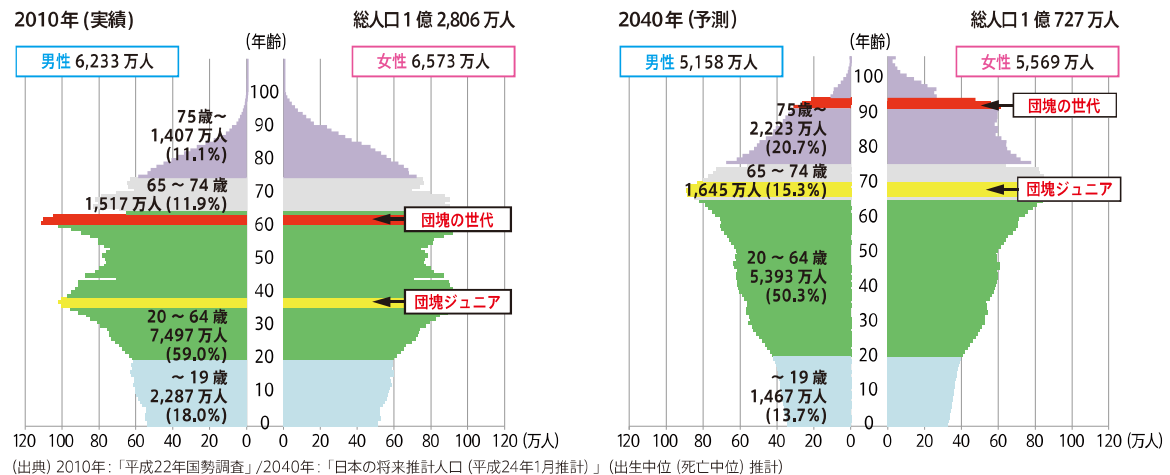
まち・ひと・しごと創生 「長期ビジョン」「総合戦略」

まち・ひと・しごと創生とは

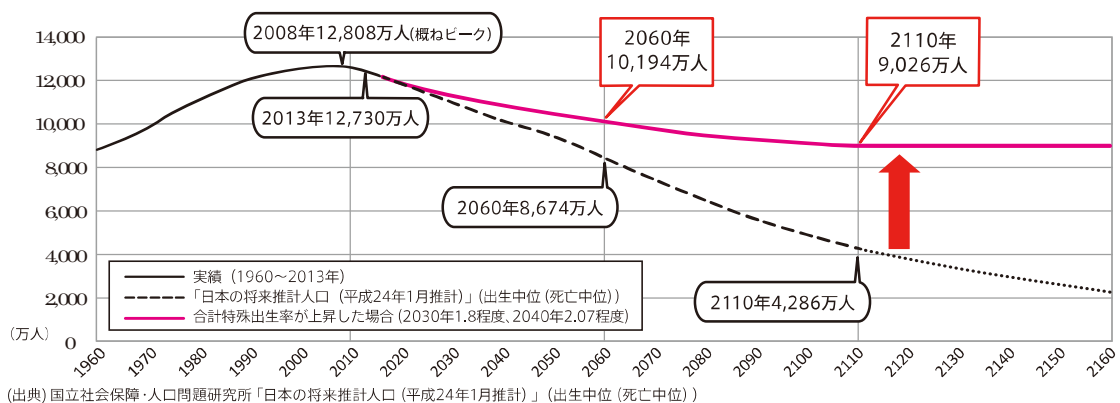
(1) まち・ひと・しごと創生が目指すもの

- 2008年に始まった人口減少は、今後加速度的に進む。
- 人口減少による消費・経済力の低下は、日本の経済社会に対して大きな重荷となる。
- 国民の希望を実現し、人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億人程度の人口を確保する。
- まち・ひと・しごと創生は、人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指す。

人口ピラミッドの変化



我が国の人口の推移と長期的な見通し



(2) なぜ、まち・ひと・しごと創生か

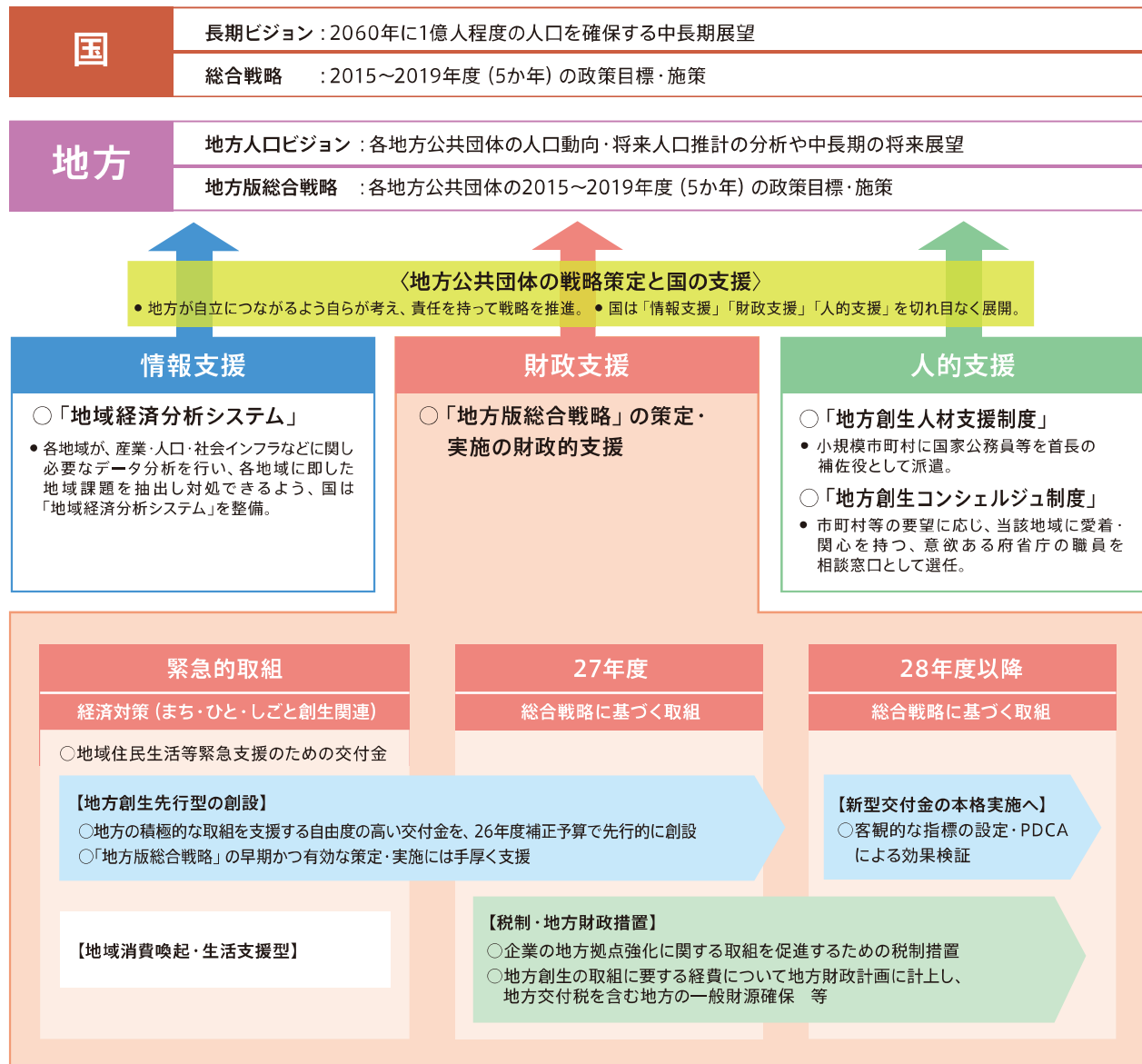
- 人口減少問題は地域によって状況や原因が異なる。
- 大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出+低出生率が日本全体の人口減少につながっている。
- 東京一極集中を是正し、若い世代の結婚・子育て希望を実現することにより人口減少を克服。
- 地域特性に応じた処方せんが必要。

人口移動（若年層中心）



（出典）日本創成会議・人口減少問題検討分科会「ストップ少子化・地方元気戦略」より

(3) 地方への多様な支援と「切れ目」のない施策の展開



(4) 「地方人口ビジョン」・「地方版総合戦略」策定のポイント

- すべての都道府県及び市町村は、平成27年度中に「地方人口ビジョン」「地方版総合戦略」の策定に努める。
- 地域経済分析システム（ビッグデータ）等を活用し、地域特性を把握した効果的な政策立案。
- 明確な目標とKPI^{※1}（重要業績評価指標）を設定し、PDCAサイクル^{※2}による効果検証・改善。
- 地方公共団体を含め、産官学金労^{※3}、女性、若者、高齢者などあらゆる人の協力・参画を促す。
- 地方議会も策定や検証に積極的に関与。
- 各々の地域での自律的な取組と地域間連携の推進。

※1 Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果目標として、日本再興戦略（2013年6月）でも設定されている。

※2 PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。

※3 （産）産業界、（官）地方公共団体や国の関係機関、（学）大学等の高等教育機関、（金）金融機関、（労）労働団体、（言）メディア。

長期ビジョン・総合戦略

長期ビジョン

人口問題に対する基本認識

「人口減少時代」の到来

今後の基本的視点

- 3つの基本的視点 ①「東京一極集中」の是正 ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現 ③地域の特性に即した地域課題の解決
- 国民の希望の実現に全力を注ぐことが重要



目指すべき将来の方向

将来にわたって「活力ある日本社会」を維持する

- 若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する。
- 人口減少に歯止めがかかると、2060年に1億人程度の人口が確保される。
- 人口構造が「若返る時期」を迎える。
- 「人口の安定化」とともに「生産性の向上」が図られると、2050年代に実質GDP成長率は、1.5～2％程度に維持される。

地方創生がもたらす日本社会の姿

◎地方創生が目指す方向

- 自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す。
- 外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。
- 地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。
- 東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。

地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく

総合戦略

基本的な考え方

- ①人口減少と地域経済縮小の克服
- ②まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

政策の企画・実行に当たっての基本方針

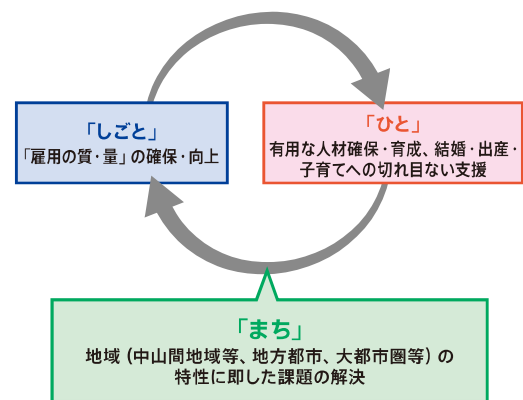
①政策5原則

従来の施策（縦割り、全国一律、バラマキ、表面的、短期的）の検証を踏まえ、政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）に基づき施策展開。

②国と地方の取組体制とPDCAの整備

国と地方公共団体ともに、5か年の戦略を策定・実行する体制を整え、アウトカム指標を原則としたKPIで検証・改善する仕組みを確立。

「しごと」と「ひと」の好循環、
それを支える「まち」の活性化



今後の施策の方向

- 基本目標① 地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる

- 基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

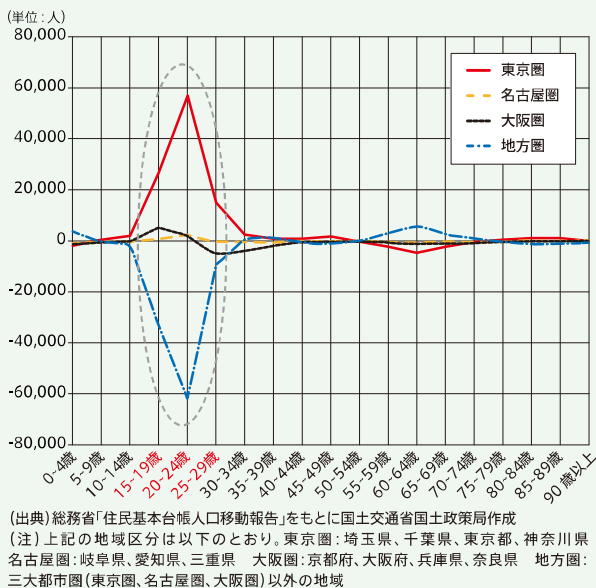
国家戦略特区・社会保障制度・税制・地方財政等

基本目標① 地方における安定した雇用を創出する

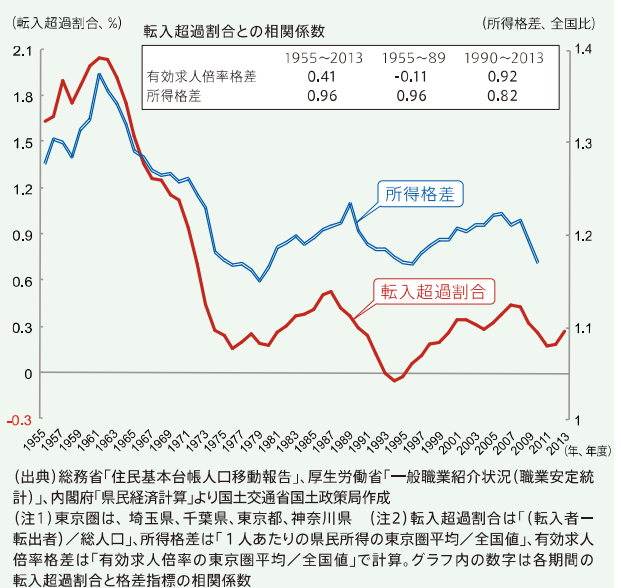
現状・課題

- 2013年の転入超過数の状況を見ると、東京圏では10万人の転入超過となっており、その大半は10代後半～20代の若者
- 東京圏への人口移動は、経済・雇用情勢の格差が影響しており、地方における雇用創出が東京一極集中是正につながる

年齢別転入超過数の状況（2013年）



東京圏への人口移動と所得格差・有効求人倍率格差の推移



基本目標

地方において若者向けの雇用をつくる。2020年までの5年間で30万人分

- 若い世代における正規雇用労働者の割合の向上。
- 女性の就業率の向上。

主な重要業績評価指標(KPI)

- 対日直接投資残高を倍増(18兆円→35兆円)
- サービス産業の労働生産性の伸び率を3倍に拡大(平均0.8%→2.0%)
- 雇用型在宅テレワーカーを全労働者数の10%以上に増加

政策パッケージ

地域経済雇用戦略の企画・実施体制の整備

- ◎地域特性や課題を抽出する「地域経済分析システム」の開発
- ◎地域の産官学金労言が連携した総合戦略推進組織の整備
- ◎地域を支えるサービス事業主体の在り方の検討・制度整備

地域産業の競争力強化(業種横断的取組)

- ◎包括的創業支援
- ◎地域を担う中核企業支援
- ◎新事業・新産業と雇用を生み出す地域イノベーションの推進
- ◎外国企業の地方への対内直接投資の促進
- ◎産業・金融一体となった総合支援体制の整備
- ◎事業承継の円滑化、事業再生、経営改善支援等

ICT等の利活用による地域の活性化

- ◎ICTの利活用による地域の活性化
- ◎異常気象や気象変動に関するデータの利活用の促進

地域産業の競争力強化(分野別取組)

- ◎サービス産業の活性化・付加価値向上
- ◎農林水産業の成長産業化
- ◎観光地域づくり、ローカル版クールジャパンの推進
- ◎地域の歴史・町並み・文化・芸術・スポーツ等による地域活性化
- ◎分散型エネルギーの推進

地方への人材還流、地方での人材育成、地方の雇用対策

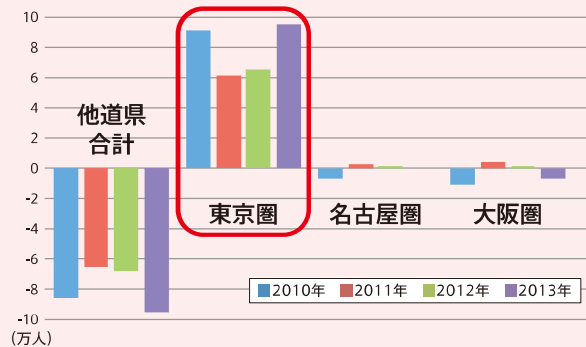
- ◎若者人材等の還流及び育成・定着支援
- ◎「プロフェッショナル人材」の地方還流
- ◎地域における女性の活躍推進
- ◎新規就農・就業者への総合的支援
- ◎大学・高等専門学校・専修学校等における地域ニーズに対応した人材育成支援
- ◎若者、高齢者、障害者が活躍できる社会の実現

基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる

現状・課題

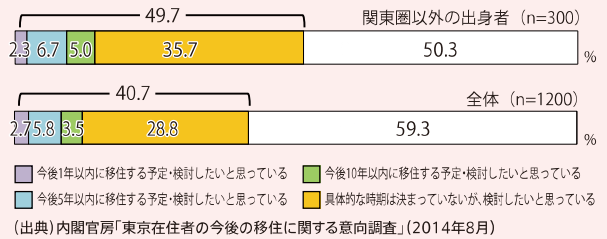
- 人口流入によって東京圏に人口が集中 ○国際的に見ても首都圏への人口集中の割合が高く、さらに上昇傾向にある
- 地方は人口減少の著しい地域が発生する見込み

住民基本台帳転出入超過数

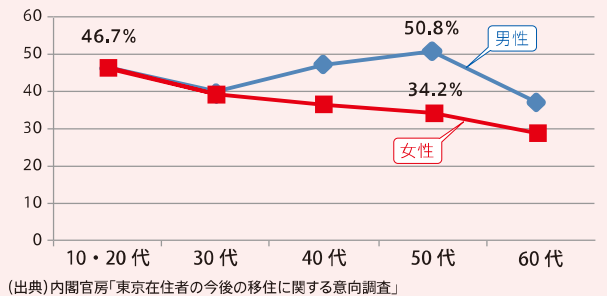


(出典)総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告(2010年～2013年)」
(注)東京圏は東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県合計、名古屋圏は愛知県・岐阜県・三重県合計、大阪圏は大阪府・兵庫県・京都府・奈良県合計

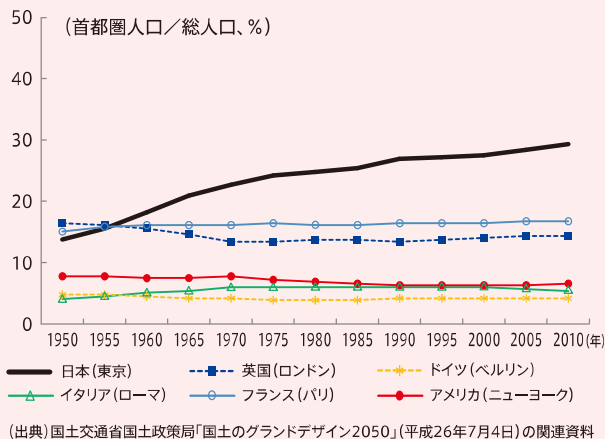
東京在住者の移住希望調査(2014年8月)



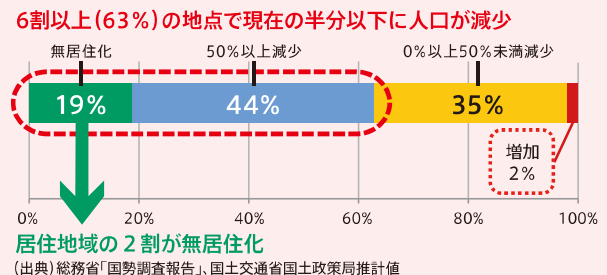
年代別の移住希望者の割合



首都圏への人口集中・欧米諸国との比較



人口増減割合別の地点数(2010年→2050年)



基本目標

現状で年間10万人超の東京圏への人口流入に歯止めをかけ、
東京圏と地方の人口の転出入を均衡させる

●2020年までに、東京圏から地方への転出を4万人増加。●2020年までに、地方から東京圏への転入を6万人減少。

主な重要業績評価指標(KPI)

- 年間移住あっせん件数11,000件 ●企業の地方拠点強化の件数を2020年までの5年間で7,500件増加
- 新規学卒者の県内就職割合を平均80%

政策パッケージ

地方移住の推進

- ◎地方移住希望者への支援体制
- ◎地方居住の本格推進
- ◎「日本版CCRC」の検討
- ◎「地域おこし協力隊」と「田舎で働き隊」の統合拡充

企業の地方拠点強化、

企業等における地方採用・就労の拡大

- ◎企業の地方拠点強化等
- ◎政府関係機関の地方移転
- ◎遠隔勤務(サテライトオフィス、テレワークの促進)

地方大学等創生5か年戦略

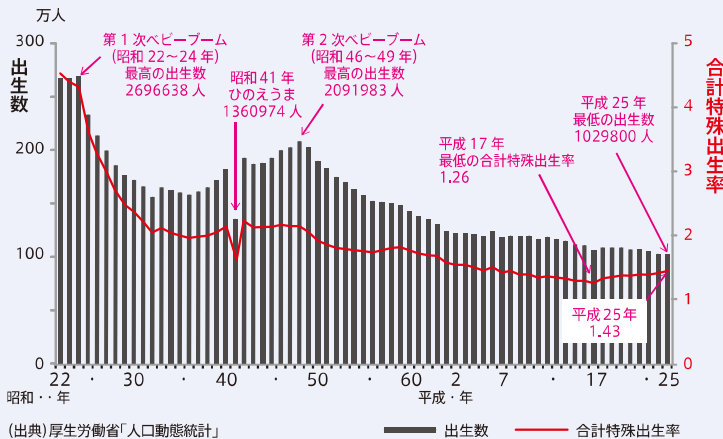
- ◎知の拠点としての地方大学強化プラン
- ◎地元学生定着促進プラン
- ◎地域人材育成プラン

基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

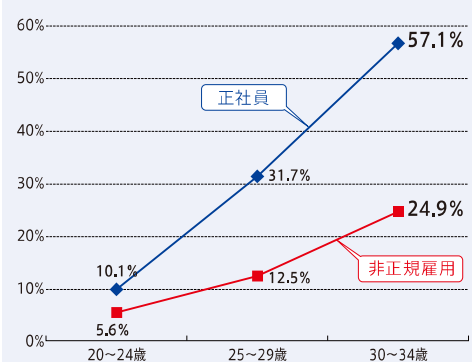
現状・課題

- 出生数は大きく減少 ○就労形態（非正規雇用等）は配偶者の有無の割合に大きく影響
- 未婚者の結婚意思は、9割程度の高い水準・理想の子どもの数も2名以上。一方、合計特殊出生率は1.43となっており、理想と現実のギャップが存在

日本の出生数・出生率推移

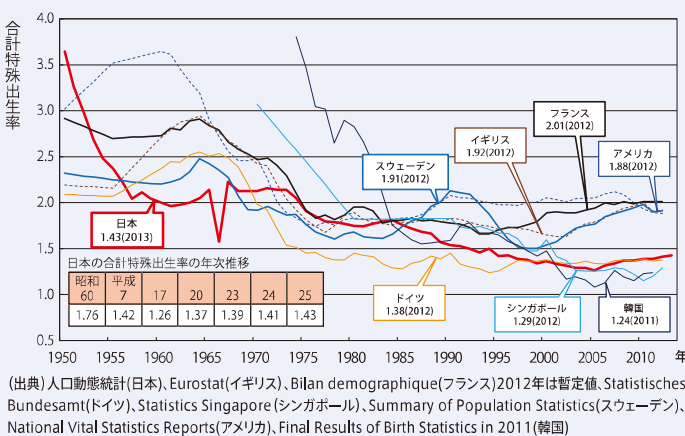


就労形態別配偶者のいる割合（男性）

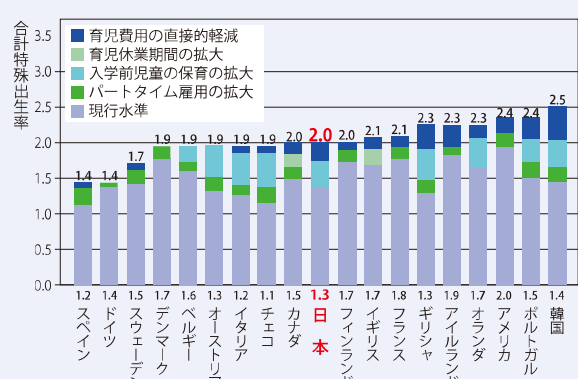


（出典）労働政策研究・研修機構「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状」（2009年）より作成

諸外国の合計特殊出生率の動向



各種政策を実行した場合の合計特殊出生率への影響



（出典）「Trends and Determinants of Fertility Rates in OECD Countries: The Role of Policies」(OECD 2005)

基本目標

若い世代が、安心して結婚・妊娠・子育てできるようにする

- 第1子出産前後の女性の継続就業率の向上。 ●結婚希望実績指標の向上。 ●夫婦子ども数予定実績指標の向上。

主な重要業績評価指標(KPI)

- 若者（20～34歳）の就業率を78%に向上 ●支援ニーズの高い妊産婦への支援実施割合100%
- 第1子出産前後の女性の継続就業率を55%に向上

政策パッケージ

若い世代の経済的安定

- ◎若者雇用対策の推進、「正社員実現加速プロジェクト」の推進
- ◎「少子化社会対策大綱」と連携した結婚・妊娠・出産・子育ての各段階に対応した総合的な少子化対策の推進

子ども・子育て支援の充実

- ◎子ども・子育て支援の充実

妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

- ◎「子育て世代包括支援センター」の整備、周産期医療の確保等

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現（「働き方改革」）

- ◎長時間労働の見直し、転勤の実態調査等

基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

現状・課題

- 中山間地域・地方都市における人口減少に伴う生活サービス提供等、地域の維持・活性化への対応
- 大都市における高齢化・単身化による医療・介護ニーズの拡大への対応
- 老朽インフラ、空き家対応などストック対策 ○コミュニティ、ふるさとづくりへの対応

基本目標 「小さな拠点」の整備や「地域連携」の推進

主な重要業績評価指標(KPI) ●「小さな拠点」の形成数(具体的数値は「地方版総合戦略」を踏まえ設定)
●立地適正化計画を作成する市町村数150 ●定住自立圏の協定締結等圏域数140

政策パッケージ

中山間地域等における「小さな拠点」(多世代交流・多機能型)の形成

- 「小さな拠点」の形成
- 公立小・中学校の適正規模化、小規模校の活性化、休校した学校の再開支援

地方都市における経済・生活圏の形成

- 都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成
- 地方都市の拠点となる中心市街地等の活性化を強力に後押しする包括的政策パッケージの策定

大都市圏における安心な暮らしの確保

- 大都市圏における医療・介護問題への対応
- 大都市近郊の公的賃貸住宅団地の再生、福祉拠点化

人口減少等を踏まえた既存ストックのマネジメント強化

- 公共施設・公的不動産の利活用についての民間活力の活用、空き家対策の推進
- インフラの戦略的な維持管理・更新等の推進

地域連携による経済・生活圏の形成

- 「連携中枢都市圏」の形成
- 定住自立圏の形成の促進

住民が地域防災の担い手となる環境の確保

- 消防団等の充実強化・ICT利活用による、住民主体の地域防災の充実

ふるさとづくりの推進

- 「ふるさと」に対する誇りを高める施策の推進

国家戦略特区・社会保障制度・税制・地方財政等

国家戦略特区制度との連携

- 国家戦略特区法改正
- 「地方創生特区」の指定

税制

- 地方法人課税改革の推進、ふるさと納税の拡充
- 地方創生に資する国家戦略特区での特例
- 地方における企業拠点の強化の促進
- 外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充
- 子、孫の結婚・妊娠・出産・子育てを支援

社会保障制度

- 子ども・子育て支援新制度の円滑な施行
- 医療保険制度改革
- 地域医療構想の策定
- 地域包括ケアシステムの構築

地方分権

- 「提案募集方式」による改革推進等

地方財政

- 地方公共団体が自主性・主体性を最大限発揮できるよう措置

その他の財政的支援の仕組み(新型交付金)

- 地方公共団体が適切な効果検証の仕組みを伴いつつ、自主性・主体性を最大限発揮できるようにするための財政的支援

規制改革

- 「空きキャパシティ」の再生・利用
- 地域における道路空間の有効活用の促進
- 地方版規制改革会議の設置

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎第8号館 【電話】03-5253-2111(代表)

【URL】<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/> 詳細はホームページをご覧ください。

2015/6/22

13

資料⑤

アンケート調査について

○調査票 A 市民意向調査

- ・ 市内に在住する若年世代（16～39 歳）1,500 人を対象に、結婚、出産、子育て、就業、暮らしに関する意見を把握することを目的に実施します。

○調査票 B 事業所

- ・ 市内の事業者 500 社を対象に、採用動向、女性就業の実態と課題、用地・施設需要、産業活性化ニーズを把握することを目的に実施します。

○調査票 C 転出者アンケート

- ・ 豊明市から市外へ転出した方 500 人を対象に、転出理由、転出先、豊明市への U ターン可能性と条件を把握することを目的に実施します。

市民意向調査(案)

問1 あなたのことについて、お尋ねします。

(1) 年齢 (1つに○印)

* 記入いただいている時点での年齢をお答えください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1) 16～19歳 | 2) 20～24歳 | 3) 25～29歳 | 4) 30～34歳 |
| 5) 35～39歳 | | | |

(2) 性別 (1つに○印)

- | | |
|-------|-------|
| 1) 男性 | 2) 女性 |
|-------|-------|

(3) 豊明市での通算の在住期間 (1つに○印)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1) 2年未満 | 2) 2年以上5年未満 |
| 3) 5年以上10年未満 | 4) 10年以上 |

(4) 豊明市に住むことになったきっかけ (1つに○印)

- | | | |
|-----------|-------------|---------------------------------|
| 1) 出生地である | 2) 進学を契機に | 3) 就職・転職を契機に |
| 4) 結婚を契機に | 5) 住宅購入を契機に | 6) その他 () |

(5) お住まいの地区 (1つに○印)

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1) 豊明中学校区 | 2) 栄中学校区 | 3) 沓掛中学校区 |
|-----------|----------|-----------|

わからない方はお住まいの町名・字名をご記入ください ()

(6) 住まい (1つに○印)

- | | | |
|---------------------|---------------------------------|---------|
| 1) 持ち家 (一戸建て) | 2) 持ち家 (マンション) | 3) 賃貸住宅 |
| 4) 社宅 (借り上げを含む)・独身寮 | 5) その他 () | |

(7) 職業の有無 (1つに○印)

* 収入を伴う就労 (家業の手伝いも含む) を対象とし、家事やボランティア活動は除いてください。

- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 1) 正社員・正職員 (育児休業中も含む) | 2) 自営業・農林水産業・個人事業者 |
| 3) パート・アルバイト | 4) 契約社員・派遣社員 |
| 5) 学生 | 6) その他 () |
| 7) 就労・就学をしていない | |

調査票A

※(7)で「1」～「6」とお答えの方にお尋ねします。

(8) 勤務先や通学先の所在地(1つに○印)

1) 豊明市内	2) 名古屋市	3) 大府市	4) 東海市
5) 刈谷市	6) 安城市	7) 豊田市	8) みよし市
9) 長久手市	10) 東郷町	11) その他 ()	

(9) (10) すべての方にお尋ねします。※お願い プライベートな質問のため可能な限りお答えください。

(9) あなたの年収(平成26年)をお教えてください。(1つに○印)

* ボーナス等も含めた税込です。

1) 0～99 万円	2) 100～299 万円	3) 300～499 万円
4) 500～699 万円	5) 700 万円以上	

(10) ご家族全員の年収(平成26年)について(1つに○印)

* 同居している家族全員の収入を対象とします。

* 1人暮らしの場合は、(9)と同じになります。

1) 0～99 万円	2) 100～299 万円	3) 300～499 万円
4) 500～699 万円	5) 700 万円以上	

生活や住まいについて

※すべての方にお尋ねします。

問2 豊明市の住みごちはどう思いますか。(1つに○印)

1) 大変住みやすい	2) まあまあ住みやすい
3) どちらともいえない	4) どちらかというに住みにくい
5) 大変住みにくい	

調査票A

問3 今後も豊明市で暮らしたいと思いますか。(1つに○印)

1) 今後も暮らしたい

2) 暮らしたいとは思わない

「1」と回答した方は
 <問4-1>をお答えください。

「2」と回答した方は
 <問4-2>をお答えください。

問4-1 豊明市で暮らしたいと思う理由
 は何ですか?
 (3つまでに○印)

1. 自然環境が良い
2. 住環境が良い
3. 医療・福祉サービスが充実している
4. 子育てをしやすい
5. 買い物や外食が便利
6. 都市基盤が整っている
7. 交通の便が良い
8. 公共施設が充実している
9. 子どもの教育環境が良い
10. 安全だから
11. 地域での人間関係が良い
12. 学校や仕事、家族の都合
13. 住みなれていて愛着がある
14. その他 ()

問4-2 豊明市で暮らしたいとは思わな
 い理由は何ですか?
 (3つまでに○印)

1. 自然環境が良くない
2. 住環境が良くない
3. 医療・福祉サービスが充実していない
4. 子育てをしにくい
5. 買い物や外食が不便
6. 都市基盤が整っていない
7. 交通の便が良くない
8. 公共施設が充実していない
9. 子どもの教育環境が良くない
10. 安全でない
11. 地域での人間関係が良くない
12. 学校や仕事、家族の都合
13. 愛着がない
14. その他 ()

子ども・子育てについて

※すべての方にお尋ねします。

問4 「理想の子ども的人数」は何人ですか。(1つに○印)

1) 0人 2) 1人 3) 2人 4) 3人 5) 4人以上

問5 「現在」の子ども的人数は何人ですか。(1つに○印)

1) 0人 2) 1人 3) 2人 4) 3人 5) 4人以上

調査票A

お子さんがいらっしゃる方にお尋ねします。

問6 お子さんは何歳ですか。(あてはまるものに人数を記入)

1) 0～2歳 ()	2) 3～5歳 ()
3) 小学1～3年生 ()	4) 小学4年生以上 ()

※問4の「理想の子どもの人数」に対して問5の「現在の子どもの人数」が少ない方にお尋ねします。

問7 理想とする子どもの人数は実現できそうですか。

1) はい	2) いいえ	3) わからない
-------	--------	----------

※問7で「2」又は「3」とお答えの方にお尋ねします。

問8 理想とする子どもの数の実現が難しいのは、どのような理由からですか。
(特に重要なこと3つまで○印)

1) 収入が不安定なこと	2) 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
3) 自分や配偶者の仕事に差し支えるから	4) 家事・育児の協力者がいないから
5) 保育園など子どもの預け先がないから	6) 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
7) 育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	
8) 夫婦の年齢が高いため	9) 健康上の理由から
10) ほしいけれどもできないから	11) 配偶者が望まないから
12) 未婚であり当面結婚の予定がないから	13) その他 ()

問9 「仕事と家庭の両立を図ることが、若い世代の子どもを産み育てやすい環境につながる」という考えについて、どのようにお考えですか。(1つに○印)

1) 非常に共感する	2) ある程度共感する	3) あまり共感しない
4) まったく共感しない		

※就労している方にお尋ねします。

問10 あなたの職場は、子育てをする人(男女問わず)にとって働きやすいと思いますか。
(1つに○印)

1) そう思う)	2) ややそう思う	3) あまりそう思わない
4) まったくそう思わない	5) わからない	

調査票A

問11 問10で3または4と答えた方にお聞きします。働きやすいのは、何が原因だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

- 1) 子育てを重視しながら働くことに、上司や同僚の理解・協力が得られない
- 2) 日常的に労働時間が長い
- 3) 通勤時間が長い
- 4) 始業・就業時間が固定的である
- 5) 顧客対応や長時間開店などで就業時間が不規則である
- 6) ひとりひとりの業務量が多い
- 7) 有給休暇がとりづらい雰囲気がある
- 8) 育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある
- 9) 育児支援制度の利用が、昇進や昇給に不利である
- 10) 転勤がある
- 11) 職場で継続就業してキャリア形成している例が少ない
- 12) 子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない
- 13) 復職にあたっての異動・配置の本人希望が通りにくい
- 14) その他 ()

結婚についての考え方・イメージ

問12 婚姻について、お教えてください。(1つに○印)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1) 結婚していない | 2) 婚約中である |
| 3) 結婚している | 4) 結婚していたが、離別・死別した |

※すべての方にお尋ねします。結婚していない方も、イメージをお答えください。

問13 あなたは、結婚の利点をどのようにお考えですか。(2つまで○印)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1) 経済的に余裕がもてる | 2) 社会的信用を得られる |
| 3) 精神的な安らぎの場が得られる | 4) 愛情を感じている人と暮らせる |
| 5) 自分の子どもや家族をもてる | 6) 生活上便利になる |
| 7) 親から独立できる | 8) 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる |
| 9) その他 () | 10) 結婚の利点はないと思う |

問14 あなたが、結婚に負担を感じるのは、どのようなことですか。(2つまで○印)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1) 家事が増えること | 2) 育児をすること |
| 3) 結婚相手の父母などの介護 | 4) 生計を立てること (責任が大きくなる) |
| 5) 生活の水準が下がりそうなこと | 6) 仕事と家庭を両立すること |
| 7) 行動の自由が制約されること | 8) その他 () |
| 9) 特に負担は感じない | |

調査票A

※問12で「1 結婚していない」とお答えの方にお尋ねします。

問15 あなたは、結婚について、どのようにお考えですか。(1つに○印)

- | |
|---|
| 1) いずれ結婚するつもり(ある程度の年齢までには結婚するつもり) |
| 2) いずれ結婚するつもり(理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない) |
| 3) 一生結婚するつもりはない |

問16 あなたは、どのような理由で結婚していませんか。(3つまで○印)

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1) まだ若いから | 2) 仕事や勉強に専念したい |
| 3) 趣味や娯楽を楽しみたい | 4) 自由や気楽さを失いたくない |
| 5) 適当な相手にめぐり会わない | 6) 異性とうまく付き合えない |
| 7) 経済的な余裕がない | 8) 住居のめどが立たない |
| 9) 親や周囲が結婚に同意しない | 10) 婚約中、結婚を考えているところである |
| 11) 必要性を感じない | 12) その他() |

就業についての考え方・イメージ

※すべての方にお尋ねします。就業していない方も、イメージをお答えください。

問17 あなたが職業を選択する際、どのような点を重視しますか。(2つまで○印)

- | | | |
|-------------|------------|-----------|
| 1) 職種、仕事内容 | 2) 勤務地 | 3) 給与、賃金 |
| 4) やりがい、面白さ | 5) 職場の人間関係 | 6) 休日、休暇 |
| 7) 勤務時間 | 8) 会社の安定性 | 9) 会社の有名度 |
| 10) 雇用期間 | 11) その他() | |

問18 勤務地域の条件はありますか。(1つに○印)

- | | | |
|--------------|----------------|----------------|
| 1) 自宅から30分以内 | 2) 自宅から通勤可能な範囲 | 3) 特にない・どこでも良い |
| 4) その他() | | |

問19 どのような業種への就業を希望されますか。(2つまで○印)

- | | | | |
|---------------------|-----------|----------|----------------|
| 1) 農林水産業 | 2) 建設業 | 3) 製造業 | 4) 電気・ガス等 |
| 5) 運輸・通信業(ソフトウェア含む) | 6) 卸売・小売業 | 7) 飲食業 | |
| 8) 金融・保険業 | 9) 不動産業 | 10) 公務 | 11) NPO(非営利組織) |
| 12) その他() | | 13) 特にない | |

調査票A

問20 どのような職種への就業を希望されますか。(2つまで○印)

1) 企画	2) 事務職	3) 営業
4) 販売	5) サービス	6) 研究・技術職
7) クリエイティブ(映像・イベント企画、デザイナー、イラストレーター等)		
8) ソフトウェア・ネットワーク関連	9) 生産工、技能工	
10) その他()	11) 特にない	

問21 あなたの希望する業種・職種への就業は豊明市内でかありませんか。(1つに○印)

1) はい	2) いいえ	3) わからない
-------	--------	----------

※問21で「2」～「3」とお答えの方にお尋ねします。

問22 どこであれば希望がかなうと思いますか。(1つに○印)

1) 名古屋市内	2) 豊田市内	3) 大府市内
4) 刈谷市内	5) 安城市内	6) その他愛知県内
7) 首都圏	8) 関西圏	9) その他()
10) わからない		

※すべての方にお尋ねします。

問23 住まい、結婚、子育てについて、一人ひとりの思いが叶う社会づくりについて、ご意見やご要望などをご記入ください。

ご協力ありがとうございました

調査票B

平成27年 月 日

事業者の皆様

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業所アンケート調査 ご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は豊明市の行政運営に格別のご厚情を賜り、ありがとうございます。

豊明市では、まち・ひと・しごと創生法（いわゆる「地方創生」）の制定に伴い、現在、豊明市版の総合戦略の策定を進めております。

地方創生では、東京集中是正による少子化対策と地方再生を両眼とした取組みが求められており、地方における若者・女性の魅力ある雇用環境の創出、そして、それらを支える地域づくりのあり方が問われています。

今回、豊明市版の総合戦略策定にあたって、市内の事業者の皆様より、採用動向、女性就業の実態と課題、産業活性化のニーズ・ご意見をお伺いし、戦略策定の基礎資料として活用させていただければと考えております。

つきましては、ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

平成27年 月 豊明市長

■ご回答について

- ・本アンケートは、東京商工リサーチから抽出してお送りしております。ご回答は、豊明市版総合戦略の施策検討以外の目的では利用しません。
- ・皆様からいただきましたご回答は、統計的に処理しますので、個々の回答を公表することはありません。
- ・回答方法は、設問の回答選択肢の番号に○印をつけてください。また、回答選択肢がない場合は、数値、記述等をご記入ください。
- ・恐縮ですが、ご回答は、平成27年 月 日(月)までに同封の返信用封筒にてご返送いただくようお願い致します。
- ・本調査の業務及び集計は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング㈱に委託しており、アンケート票の返送先は、委託先とさせていただきますのでご了承ください。

【お問合せ】

- ・アンケート調査項目についてのご質問や、個人情報の削除等のお申し出については、委託先の担当にご連絡ください。

委託先：三菱UFJリサーチ&コンサルティング㈱

政策研究事業本部（名古屋） 研究開発第二部 担当：河合、坂入

TEL：052-307-1103 FAX：052-307-0920

〒461-8516 名古屋市東区葵1-19-30

個人情報は、同社の「個人情報保護方針」及び「個人情報の取扱いについて」

<<http://www.murc.jp/profile/privacy.html>>に従って適切に取り扱います。

- ・アンケートの実施に関するご質問については、下記までご連絡ください。

豊明市 行政経営課 企画政策課 TEL 0562-92-8318

■採用状況について

貴社の豊明市内の事業所を対象に、ご回答ください。

Q1 豊明市内事業所の平成 25 年度春の採用状況並びに平成 24 年度の中途採用の状況についてお伺いします。採用区分毎に該当する番号に○をつけてください。

採用状況 採用区分			採用あり			採用なし
			男女とも採用	女性のみ採用	男性のみ採用	
新規学卒者	4年生大学	事務・営業系	1	2	3	4
		技術系	1	2	3	4
	短大・高専	事務・営業系	1	2	3	4
		技術系	1	2	3	4
	高校卒	事務・営業系	1	2	3	4
		技術系	1	2	3	4
中途採用			1	2	3	4

Q2 Q1の「中途採用」で女性 問1で「中途採用」で女性を採用(1または2に○)した企業にのみお聞きします。出産・育児期に一度就業を中断し、子育てが一段落したところで再就職する女性を採用しましたか。

1. 常用雇用者として採用 2. パートとして採用 3. 採用なし

Q3 現在、次のAからHに該当する各部署において男女の配置状況はどうなっていますか。該当する番号を A～ H 列毎に1 つ○ で囲んでください。

	A 人事・総務・経理	B 企画・調査・広報	C 研究開発	D 情報処理	E 営業	F 販売・サービス	G 生産	H その他
男女とも配置	1	1	1	1	1	1	1	1
女性のみ配置	2	2	2	2	2	2	2	2
男性のみ配置	3	3	3	3	3	3	3	3

Q4 昨年度の採用環境についてお伺いします。男女別に該当する番号に○をつけてください。

		男性		女性	
新卒	①大学・大学院・短大・高専	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし
	②高校生・専門学校生	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし
中途	③正社員	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし
	④パート社員	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし	1. 厳しい 3. 順調	2. 普通 4. 採用予定なし

調査票B

Q5 昨年度の採用者の卒業学校の所在地

		回答欄	
新卒	①大学・大学院・短大・高専	1. 県内 () 人 2. 愛知県を除く東海エリア () 人 3. 首都圏 () 人 4. 関西圏 () 人 5. その他 () 人	1. 県内 () 人 2. 愛知県を除く東海エリア () 人 3. 首都圏 () 人 4. 関西圏 () 人 5. その他 () 人
	②高校生・専門学校生	1. 県内 () 人 2. 愛知県を除く東海エリア () 人 3. 首都圏 () 人 4. 関西圏 () 人 5. その他 () 人	1. 県内 () 人 2. 愛知県を除く東海エリア () 人 3. 首都圏 () 人 4. 関西圏 () 人 5. その他 () 人

地域の定義：愛知県を除く東海エリア ； 静岡県、三重県、岐阜県

首都圏 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県 関西圏 大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

Q6 求人・採用に対する課題についてお伺いします。選択肢からあてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 新卒採用が難しくなっている
2. パート採用が難しくなっている
3. 希望する専攻・学科の学生・生徒が採用できない
4. 採用後の離職が多くなっている
5. 愛知県内の学校からの採用が難しくなっており、他県からの採用に努力している
6. その他 ()

■育児・介護休業等の休業制度・再雇用制度等についてお伺いします

Q7 下記の各制度の規定はありますか。また、ありの場合は、取得可能な期間についてお伺いします。区分毎に該当する番号1つに○印をおつけください。

区 分	規定の有無	→左で「あり」の場合の取得可能な期間
育児休業制度	1. なし 2. あり	1. 1歳まで 2. 1歳6月まで 3. 2歳まで 4. 3歳まで 5. その他（具体的に)
介護休業制度	1. なし 2. あり	1. 1ヶ月 2. 2ヶ月 3. 3ヶ月 4. その他（具体的に)
子の看護休暇制度	1. なし 2. あり	
配偶者出産休暇制度（配偶者出産時の男性労働者休暇制度）	1. なし 2. あり	

調査票B

Q8 各制度は非正規社員にも適用されますか。区分毎に該当する番号1つに○印をおつけください。

区 分	適用あり	適用なし
育児休業制度	1	2
介護休業制度	1	2
子の看護休暇制度	1	2
配偶者出産休暇制度（配偶者出産時の男性労働者休暇制度）	1	2

Q9 育児に関して講じている勤務時間の短縮等の措置について、それぞれの規定はありますか。区分ごとに該当する番号を1つ○で囲んで下さい。H27.4.1現在の状況で回答願います。

項目	選択肢（2. なしの場合は今後の予定も要回答）
短時間勤務制度	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）
フレックスタイム制度	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）
始業・終業時刻の繰上・繰下	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）
所定外労働の免除	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）
育児サービス利用の費用助成	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）
職業家庭両立推進者の選任	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）
事業所内託児施設の設置	1. あり 2. なし ⇒ 今後の予定（ア. あり イ. なし）

■用地、施設需要について

Q10 貴事業所では、豊明市内あるいは豊明市周辺において、拡張用地や新設用地などが必要になっていますか。該当する番号○印をつけてください。（1つだけ）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. すぐにでも必要である | 2. 近い将来必要である |
| 3. 状況によって必要となる可能性がある | 4. 必要ではない →次ページの Q11 へ |

Q11① 用地の取得・確保は、いつ頃までに必要となりそうですか。該当する番号に○印をつけてください。（1つだけ）

- | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|----------|
| 1. 1年以内 | 2. 2～3年後 | 3. 4～5年後 | 4. 6年以上 | 5. 分からない |
|---------|----------|----------|---------|----------|

Q11② その用地は、どのような利用をお考えですか。該当する番号すべてに○印をつけてください。（いくつでも）

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------------------------|----------|
| 1. 生産施設（工場） | 2. 研究開発施設 | 3. オフィス、事務所 | 4. 店舗 |
| 5. 研修施設 | 6. 倉庫、配送センター | 7. トラックターミナル | 8. 資材置き場 |
| 9. 従業員用駐車場 | 10. 社宅、社員寮 | 11. その他（ ） | |

調査票B

Q11③ その用地の面積はどの程度ですか。おおよそで結構ですので、面積(m²)をご記入ください。

m ²

■豊明市や商工会の企業支援について

Q12 行政の企業支援事業等の活用を考える場合、どの機関に相談しようとお考えですか。上位3つに〇印をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 取引先の銀行 | 2. 税理士・会計士またはその所属事務所 |
| 3. 豊明市役所 | 4. 豊明市商工会 |
| 5. 組合・業界の加盟事務所 | 6. 県または公益財団法人あいち産業振興機構 |
| 7. 中部経済産業局 | 8. その他 () |
| 9. 利用したことがない・分からない | |

Q13 これまで行政の企業支援事業等を活用した時に、実際に利用または相談した機関はありますか。過去3年間で、実際に利用・相談した機関について、該当する番号すべてに〇印をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 取引先の銀行 | 2. 税理士・会計士またはその所属事務所 |
| 3. 豊明市役所 | 4. 豊明市商工会 |
| 5. 組合・業界の加盟事務所 | 6. 県または公益財団法人あいち産業振興機構 |
| 7. 中部経済産業局 | 8. その他 () |
| 9. 利用したことがない・分からない | |

Q14 豊明市、豊明商工会に対して、企業活動支援の面で、期待するものについて、期待する分野(①の選択肢)から上位3つまでを選び、それぞれについて期待する機能(②の選択肢)から各2つまで選んでください。

【回答選択肢】

①期待する分野

1. 経営革新・経営改善
 2. 新ビジネス・新事業への展開
 3. 販路開拓
 4. 技術開発
 5. 資金繰り
 6. 雇用・採用
 7. 人材育成
 8. 不動産(用地・建物)の投資・売却

②期待する機能

1. 補助金・助成金の情報提供
 2. コーディネーター・専門家の紹介
 3. 制度、規制、税金などの説明
 4. パートナー企業や企業マッチング
 5. 公的機関や試験研究機関等の問合せ先の紹介
 6. 売り先・仲介先などの紹介
 7. マーケティング情報、海外情報などの提供
 8. 催事やイベント等の情報提供

【回答欄】

		期待する分野 〔①欄から 一つずつ〕	期待する機能 〔②欄から①の分野について それぞれ2つまで〕
豊明市、豊明商工会に期待するもの	第1位		
	第2位		
	第3位		

調査票B

Q15 貴事業所にとって必要とお考えの施策について、あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

- | | | |
|--------------|-----------------|----------------|
| 1. 立地支援体制の整備 | 2. 事業継続支援 | 3. 研究開発・設備投資支援 |
| 4. 販路開拓支援 | 4. 雇用・人材支援 | 5. 企業連携支援 |
| 6. 経営革新支援 | 7. 知的財産・ブランド化支援 | 8. 農商工連携支援 |
| 9. 海外進出支援 | 10. 観光支援 | 11. 子育て支援 |
| 12. 介護支援 | 13. 余暇環境の整備・支援 | 14. 通勤環境の支援 |
| 15. その他 () | | |

■産学連携について

Q16 貴事業所は、大学等と共同研究、相談など産学連携を実施していますか。(1つだけ)

- | | | |
|----------------|--------------|------------|
| 1. 共同研究を実施している | 2. 技術相談をしている | 3. 何もしていない |
| 4. その他 () | | |

Q17 今後大学等と産学連携を実施したいとお考えですか。(1つだけ)

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 共同研究を実施したい | 2. 技術相談をしたい | 3. 考えたことがない |
| 4. その他 () | | |

■自由意見欄

Q18 現在お困りになっていることはありますか。また、その解決において豊明市に期待することはありますか。

自由回答欄

Q19 豊明市の産業振興について、ご意見がありましたら自由にお書きください。

自由回答欄

調査票B

■ 貴事業所について

貴社名	部署名																																					
役職名	お名前																																					
電話番号	FAX番号																																					
e メールアドレス																																						
所在地(豊明市内事業所) :																																						
所在地(本社) :																																						
創業年	西暦_____年	豊明市内事業所の設立年 西暦_____年																																				
豊明市内にある事業所の業種について、該当する番号すべてに○印をつけてください。 【製造業】 <table border="0"> <tr> <td>1. 食料品製造業</td> <td>2. 飲食・たばこ・飼料製造業</td> <td>3. 繊維工業</td> </tr> <tr> <td>4. 衣服・その他繊維製品製造業</td> <td>5. 木材・木製品製造業</td> <td>6. 家具・装備品製造業</td> </tr> <tr> <td>7. パルプ・紙・紙加工品製造業</td> <td>8. 印刷・同関連業</td> <td>9. 化学工業</td> </tr> <tr> <td>10. 石油製品・石炭製品製造業</td> <td>11. プラスチック製品製造業</td> <td>12. ゴム製品製造業</td> </tr> <tr> <td>13. なめし革・同製品・毛皮製造業</td> <td>14. 窯業・土石製品製造業</td> <td>15. 非鉄金属製造業</td> </tr> <tr> <td>16. 金属製品製造業</td> <td>17. 一般機械器具製造業</td> <td>18. 電気機械器具製造業</td> </tr> <tr> <td>19. 情報通信気機械器具製造業</td> <td>20. 輸送用機械器具製造業</td> <td>21. 精密機械器具製造業</td> </tr> <tr> <td colspan="3">22. その他製造業</td> </tr> </table> 【その他】 <table border="0"> <tr> <td>1. 建設業</td> <td>2. 情報通信業</td> <td>3. 運輸・郵便業</td> </tr> <tr> <td>4. 卸売業</td> <td>5. 小売業</td> <td>6. 飲食業</td> </tr> <tr> <td>7. 宿泊業</td> <td>8. 医療・福祉</td> <td>9. その他サービス業</td> </tr> <tr> <td colspan="3">10. その他 ()</td> </tr> </table>			1. 食料品製造業	2. 飲食・たばこ・飼料製造業	3. 繊維工業	4. 衣服・その他繊維製品製造業	5. 木材・木製品製造業	6. 家具・装備品製造業	7. パルプ・紙・紙加工品製造業	8. 印刷・同関連業	9. 化学工業	10. 石油製品・石炭製品製造業	11. プラスチック製品製造業	12. ゴム製品製造業	13. なめし革・同製品・毛皮製造業	14. 窯業・土石製品製造業	15. 非鉄金属製造業	16. 金属製品製造業	17. 一般機械器具製造業	18. 電気機械器具製造業	19. 情報通信気機械器具製造業	20. 輸送用機械器具製造業	21. 精密機械器具製造業	22. その他製造業			1. 建設業	2. 情報通信業	3. 運輸・郵便業	4. 卸売業	5. 小売業	6. 飲食業	7. 宿泊業	8. 医療・福祉	9. その他サービス業	10. その他 ()		
1. 食料品製造業	2. 飲食・たばこ・飼料製造業	3. 繊維工業																																				
4. 衣服・その他繊維製品製造業	5. 木材・木製品製造業	6. 家具・装備品製造業																																				
7. パルプ・紙・紙加工品製造業	8. 印刷・同関連業	9. 化学工業																																				
10. 石油製品・石炭製品製造業	11. プラスチック製品製造業	12. ゴム製品製造業																																				
13. なめし革・同製品・毛皮製造業	14. 窯業・土石製品製造業	15. 非鉄金属製造業																																				
16. 金属製品製造業	17. 一般機械器具製造業	18. 電気機械器具製造業																																				
19. 情報通信気機械器具製造業	20. 輸送用機械器具製造業	21. 精密機械器具製造業																																				
22. その他製造業																																						
1. 建設業	2. 情報通信業	3. 運輸・郵便業																																				
4. 卸売業	5. 小売業	6. 飲食業																																				
7. 宿泊業	8. 医療・福祉	9. その他サービス業																																				
10. その他 ()																																						
豊明市内にある事業所の従業者数をお教えてください。(役員や非正規雇用者、あるいは事業主や無給家族従事者なども含む、働いている人すべての人数)。 <table border="0"> <tr> <td>1. 1～9人</td> <td>2. 10～29人</td> <td>3. 30～99人</td> </tr> <tr> <td>4. 100～299人</td> <td>5. 300～499人</td> <td>6. 500人以上</td> </tr> </table> うち 女性従業者の割合 約 () 割			1. 1～9人	2. 10～29人	3. 30～99人	4. 100～299人	5. 300～499人	6. 500人以上																														
1. 1～9人	2. 10～29人	3. 30～99人																																				
4. 100～299人	5. 300～499人	6. 500人以上																																				

本アンケート調査へのご協力、誠にありがとうございました。このアンケート票を返信用封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。 よろしくお願い致します。

調査票C

市外転出者アンケート（案）

問1 豊明市から転出された時の家族形態を教えてください。（あてはまるものひとつ）

- 1) 本人のみ（転出後結婚した場合を含む）
- 2) 家族全員
- 3) 家族の一部（複数名での転出）

問2 豊明市における通算の居住年数を教えてください。（あてはまるものひとつ）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1) 1年以上5年未満 | 2) 5年以上10年未満 |
| 3) 10年以上20年未満 | 4) 20年以上 |

問3 豊明市から転出された理由を教えてください。（あてはまるもの全て）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1) 就職（新規採用での就職） | 2) 転勤 |
| 3) 転職・退職 | 4) 結婚 |
| 5) 進学 | 6) 親や子どもとの同居、近居 |
| 6) 親や子供からの独立や別居 | 7) 住宅の都合（新築・借り換えなど） |
| 8) 周囲の環境（交通・治安・子育てなど） | 9) 地震など自然災害に対する不安 |
| 10) その他（ | ） |

問4 問3で「7）住宅の都合（新築・借り換えなど）」を選択された方にうかがいます。具体的な理由について教えてください。（あてはまるもの全て）

- 1) 豊明市に希望する価格の土地や住宅がみつからなかった
- 2) 豊明市よりも勤め先や学校に近い場所に住みたかった
- 3) 豊明市よりも買い物に便利な場所に住みたかった
- 4) 豊明市よりも病院に通い場所に住みたかった
- 5) 豊明市よりも教育環境に良い場所に住みたかった
- 6) 親族に近い場所に住みたかった
- 7) 特に理由なし
- 8) その他

問5 転出前と転出後の住宅の所有形態について教えてください。（あてはまるものひとつ）

【転出前】

- | | | | | |
|------------------|-------|-------|------|--------|
| 1) 持ち家（戸建、マンション） | ⇒ 所有者 | イ) 本人 | ロ) 親 | ハ) その他 |
| 2) 借家（戸建、マンション） | ⇒ 借主 | イ) 本人 | ロ) 親 | ハ) その他 |
| 3) UR住宅・県営住宅（賃貸） | ⇒ 借主 | イ) 本人 | ロ) 親 | ハ) その他 |
| 4) 社宅・社員寮・下宿・学生寮 | | | | |
| 5) その他（ | | | | ） |

【転出後】

- | | | | | |
|------------------|-------|-------|------|--------|
| 1) 持ち家（戸建、マンション） | ⇒ 所有者 | イ) 本人 | ロ) 親 | ハ) その他 |
| 2) 借家（戸建、マンション） | ⇒ 借主 | イ) 本人 | ロ) 親 | ハ) その他 |
| 3) UR住宅・県営住宅（賃貸） | ⇒ 借主 | イ) 本人 | ロ) 親 | ハ) その他 |
| 4) 社宅・社員寮・下宿・学生寮 | | | | |
| 5) その他（ | | | | ） |

調査票C

問6 転出先を教えてください。

_____都・道・府・県_____市・区・町・村

問7 転出後、豊明市を訪れる機会がありますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|---------------|------------|
| 1) 週5日以上 | 2) 週1日以上 | 3) 月2～3回程度 |
| 4) 月1回程度 | 5) 2～3ヶ月に1回程度 | 6) 半年に1回程度 |
| 7) 年1回程度 | 8) ほとんどない | 9) 全くない |

問8 問5で「1)～7)」を選択された方にうかがいます。豊明市を訪れる理由を教えてください。
(あてはまるもの全て)

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| 1) 職場への通勤 | 2) 学校への通学 | 3) 顧客・取引先への訪問 |
| 4) 親の介護のため | 5) 所有物件の管理 | 6) 友人に会うため |
| 7) 帰省のため | 8) その他 () | |

問9 もし、機会があれば、豊明市にもう一度住みたいと思われませんか。(1つに○)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1) 住みたい | 2) 条件があれば住みたい |
| 3) 住みたくない | 4) わからない |

問10 豊明市でもう一度住むとしたら、どのような条件が必要になりますか。(あてはまるもの全て)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1) 良い職場があれば | 2) 良い住宅があれば |
| 3) 良い子育て環境があれば | 4) 良い生活環境があれば |
| 5) 交通環境が良くなれば | 6) 良い介護・医療環境があれば |
| 7) その他 () | |
| 8) まったく戻るつもりはない | |

問11 あなたの性別を教えてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1) 男性 | 2) 女性 |
|-------|-------|

問12 あなたの年齢を教えてください。

- | | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| 1) 19歳以下 | 2) 20歳代 | 3) 30歳代 | 4) 40歳代 |
| 5) 50歳代 | 6) 60歳代 | 7) 70歳以上 | |

問13 豊明市のまちづくりについてご意見があれば自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。

資料⑥

ヒアリング実施について

項目	候補	ヒアリング事項
住宅環境	名鉄不動産	○豊明市の住宅市場について ○購入者の特徴（年齢、地域など） ○転入者拡大の課題 など
商業環境	アオキスーパー コープ豊明店 （前後駅 B1F）	○豊明市の商業環境について ○年齢構成変化に対応した課題について ○豊明市の地元産品の取り扱いについて ○東郷町の大型店出店の影響について など
ビジネス環境①	若手経営者※	○豊明市のビジネス環境について ○経営相談、技術相談先 ○行政や商工会への期待 など
ビジネス環境②	金融機関※	○地元企業の設備投資の意欲 ○住宅ローンの状況 ○雇用情勢 など
子育て環境	主婦層※	○豊明市の子育て環境の良いところ、悪いところ ○仕事と子育てを両立するうえで、豊明市に期待することについて
都市イメージ	豊明高校 生徒※	○豊明市に対するイメージ ○豊明市よく立ち寄る場所 ○イメージアップの方法について

※印は、グループインタビューを予定

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略
地域住民生活等緊急支援のための交付金(地方創生先行型)の上乗せ交付分

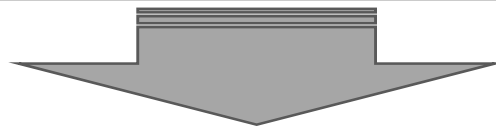
＜事業アイデア提案書＞

別紙、『まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」』及び『地域住民等生活緊急支援のための交付金(地方創生先行型)の上乗せ分について』を参考に、制度趣旨や要件に合致する事業のアイデアがございましたら、下記様式にしたがってご記入をお願いします。(任意の様式でも結構です。)

提案にあたっては、

- ①委員の皆様の専門性や経験などに基づく『現状の課題・背景』を記載いただき、
- ②それを解決するための新しく、自由な発想の事業アイデアのご提案をお願いします。

- ①あなたが感じている豊明市での現状の課題・背景を記載してください。**
(※委員の皆様の専門性や経験などに基づいた意見としてください。)



- ②. ①を解決するための事業アイデア**

※可能であれば、考えられる事業実施による成果指標(アウトカム)「重要業績評価指標(KPI)」も記載して下さい。

◇事業名

◇事業概要

◇成果指標(KPI)

【 提出期限：平成 27 年 7 月 24 日(金) 】

提出先:豊明市役所企画政策課 (担当 小川、矢野)	T E L :0562-92-8318 F A X :0562-92-1141 E メール: kikaku@city.toyoake.lg.jp
------------------------------	--

資料⑧

平成27年 6月30日

豊明市まち・ひと・しごと
創生総合戦略推進委員会 委員 様

豊明市まち・ひと・しごと
創生総合戦略推進委員会 事務局

第2回豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の日程調整
について（お願い）
このことについて、下記の日程についてご都合を7月10日までにお知らせください。

記

推進委員氏名：_____

〈第2回豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の開催候補日〉

日にち	午 前	午 後
9月 9日（水）		
9月10日（木）		
9月11日（金）		
9月14日（月）		
9月15日（火）		
9月16日（水）		
9月17日（木）		
9月18日（金）		
9月24日（木）		
9月28日（月）		

※ご都合を「○・×」でご記入ください。

報告先：豊明市行政経営部企画政策課（まち・ひと・しごと創生総合戦略事務局）

E-mail：kikaku@city.toyoake.lg.jp

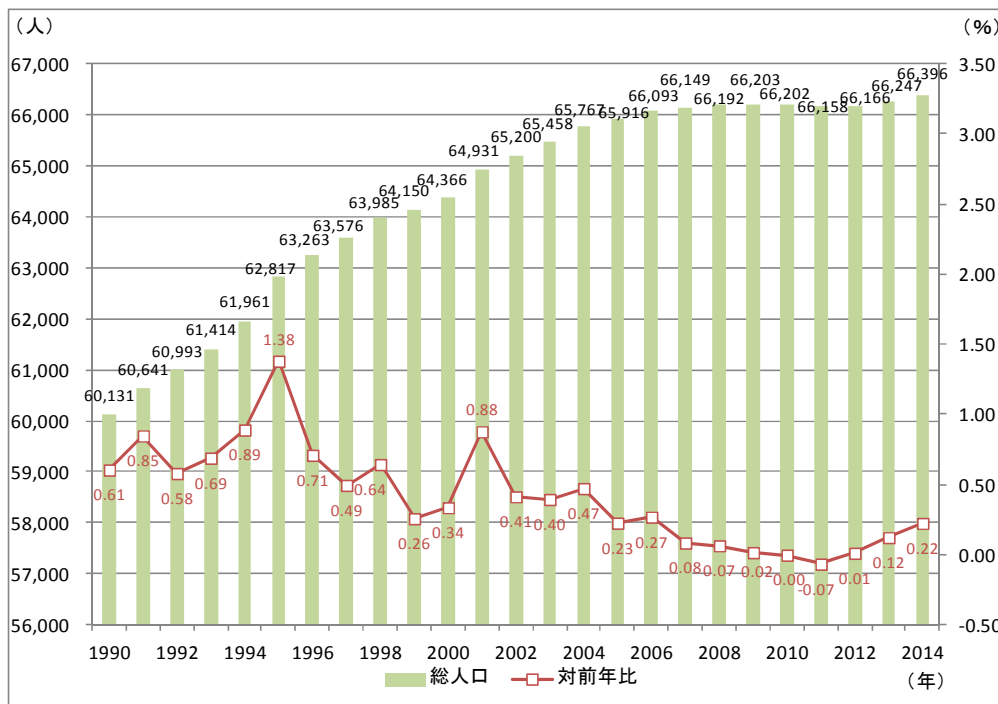
FAX：0562-92-1141

参考資料

豊明市の人口動向

1. 豊明市の人口推移（日本人）	1
2. 豊明市の人口推移（総数）	1
3. 豊明市の5歳階級別人口（2010年）	2
4. 豊明市の3区分による人口推移	2
5. 豊明市の人口増減数の推移	3
6. 愛知県内市町村の自然増減・社会増減の状況（名古屋市を除く）	4
7. 豊明市の純移動率（2010年→2015年）からみた要因分析のイメージ	5
8. 豊明市の都市間人口移動の状況	6
9. 豊明市の昼夜間人口比率（2010年）からみた要因分析のイメージ	7
10. 豊明市の昼間及び夜間人口等の状況（2010年）	7

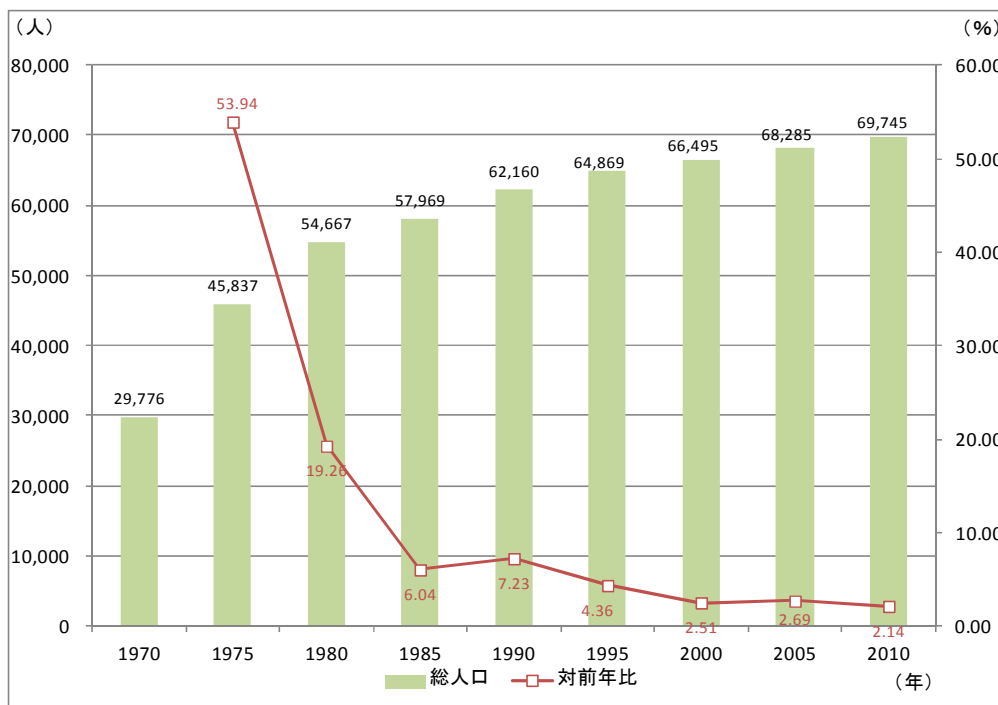
1. 豊明市の人口推移（日本人）



(注) 人口、世帯数は 2013 年まで 3 月 31 日時点、2014 年以降は 1 月 1 日時点

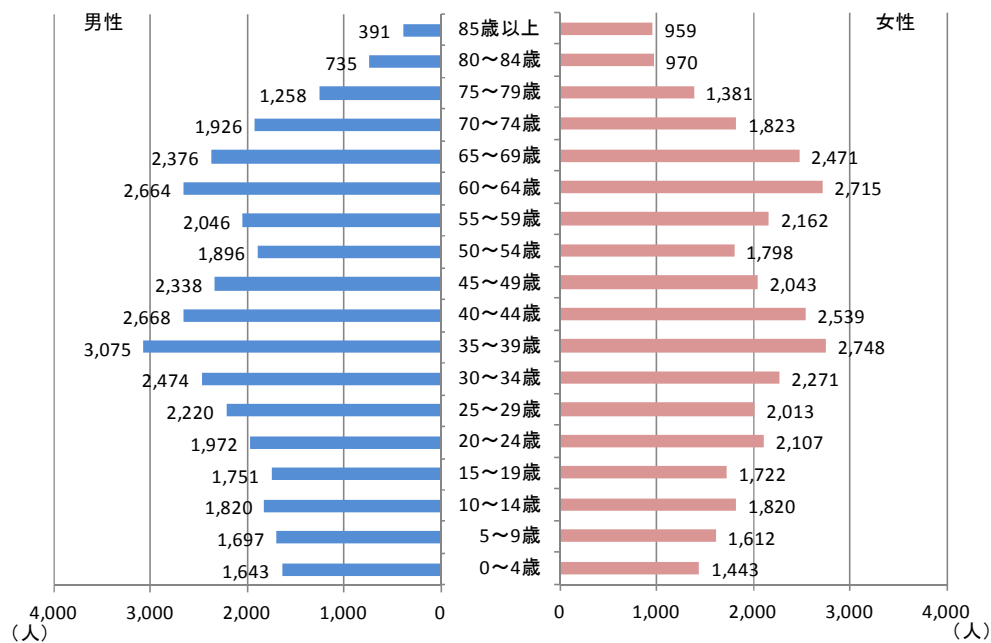
(資料) 住民基本台帳

2. 豊明市の人口推移（総数）



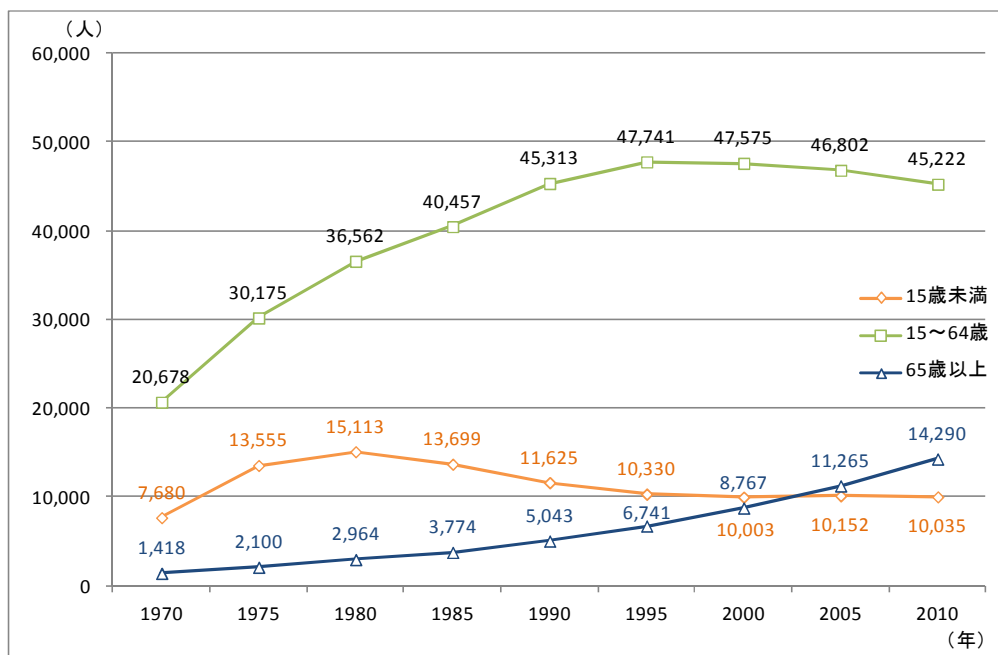
(資料) 国勢調査

3. 豊明市の5歳階級別人口（2010年）



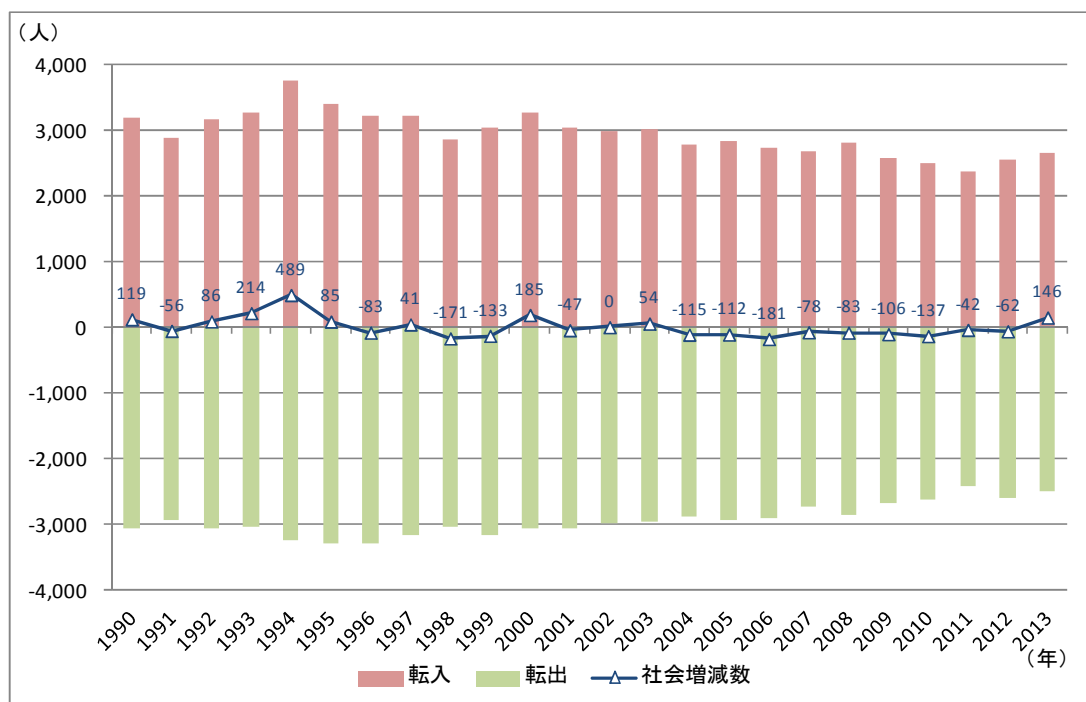
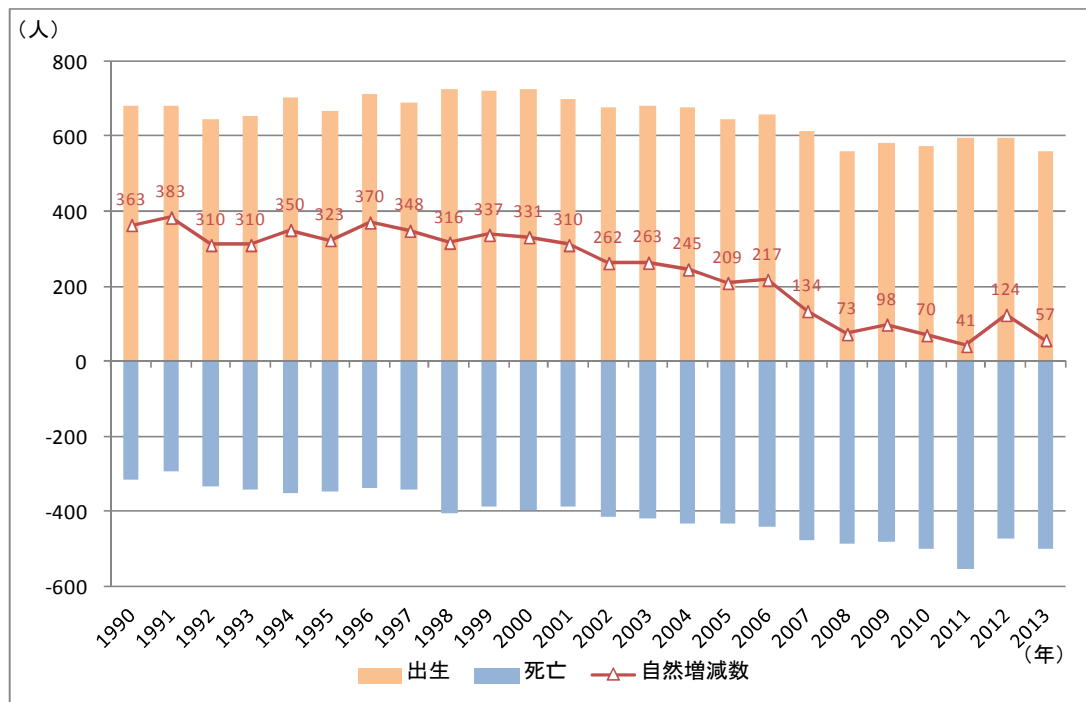
（資料）国勢調査

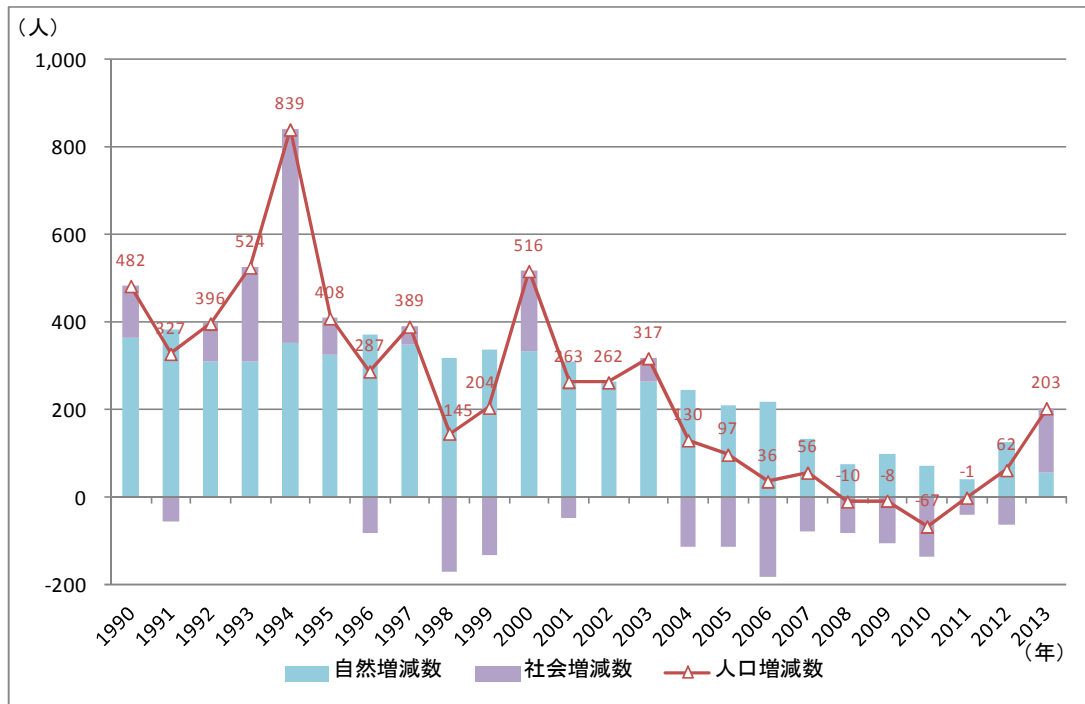
4. 豊明市の3区分による人口推移



（資料）国勢調査

5. 豊明市の人口増減数の推移

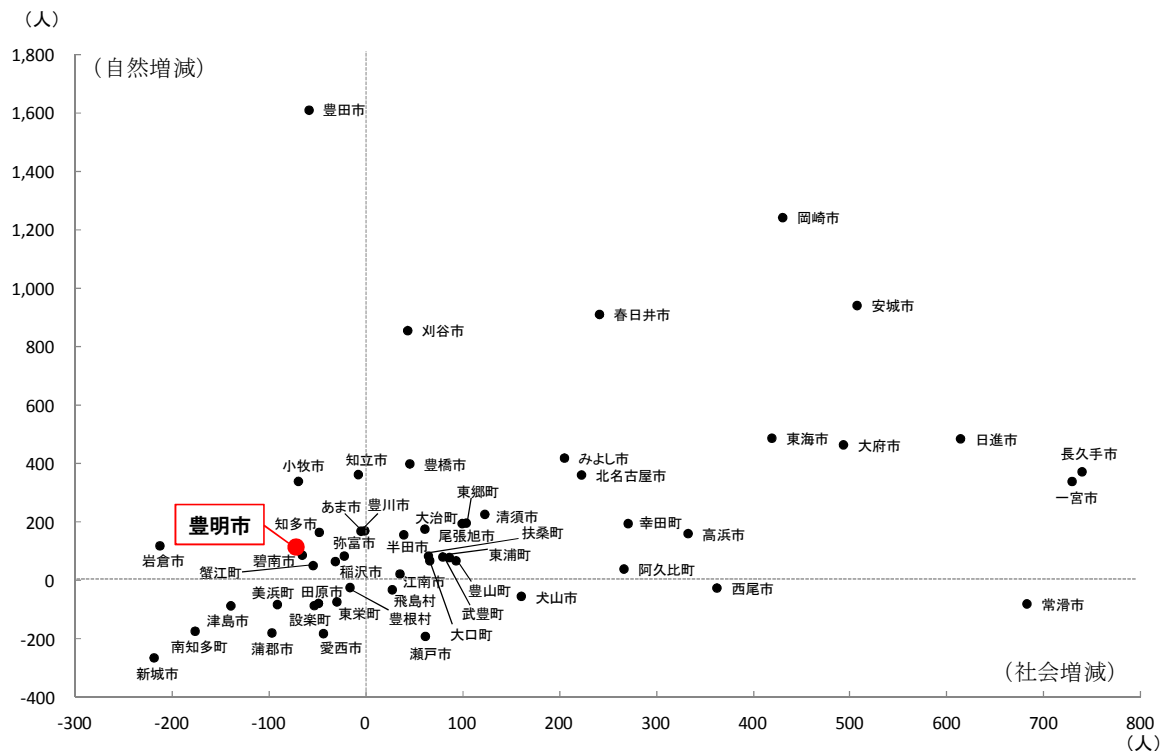




(注) 人口、世帯数は 2013 年まで 3 月 31 日時点、2014 年以降は 1 月 1 日時点

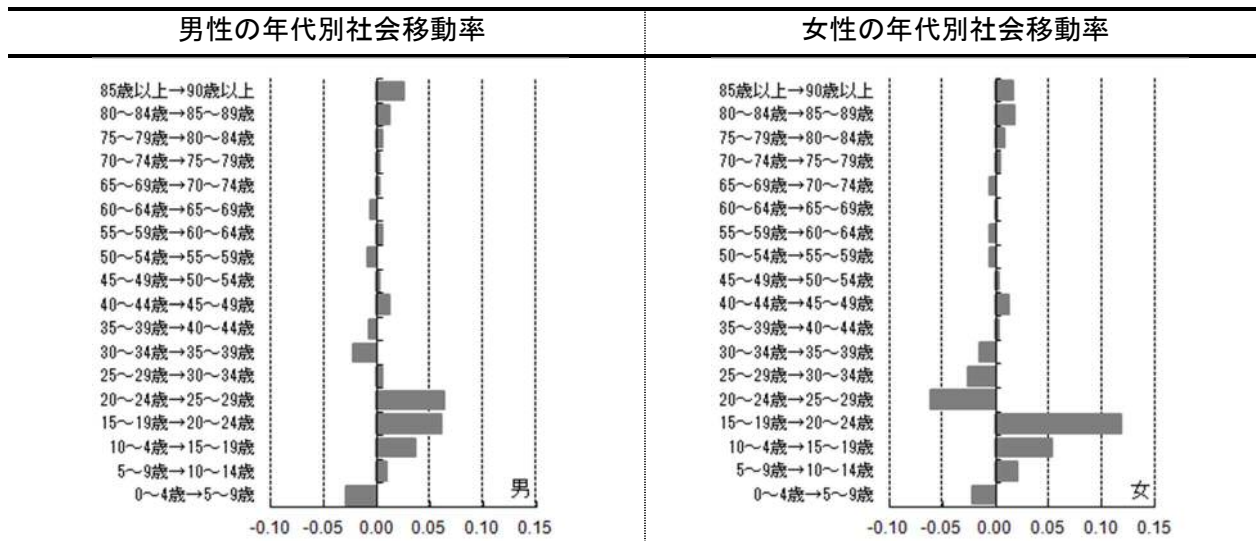
(資料) 住民基本台帳

6. 愛知県内市町村の自然増減・社会増減の状況（名古屋市を除く） （2005 年度～2012 年度の平均）



(資料) 住民基本台帳

7. 豊明市の純移動率（2010年→2015年）からみた要因分析のイメージ

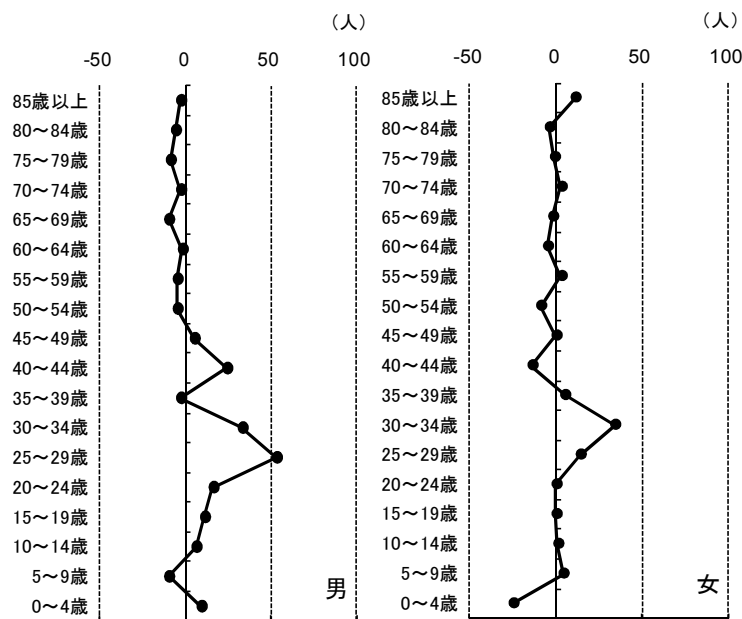


○高校卒、大学卒、就職時に大きな流入がみられるが、マイホーム取得時や退職時の流出がみられる。

○男性に比べて高校卒、大学卒時の流入が大きく、就職時、結婚時の流出が大きい。

（資料）国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』

【参考】豊明市の5歳階級別社会増減数（2013年）



（資料）住民基本台帳

8. 豊明市の都市間人口移動の状況

(1) 愛知県内市町村別

① 転出超上位 5 市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
名古屋市	663	794	-131	名古屋市	717	824	-107
大府市	66	98	-32	愛知郡	38	73	-35
知多郡	19	41	-22	東郷町	38	73	-35
長久手市	5	24	-19	稲沢市	8	20	-12
みよし市	19	34	-15	東海市	37	47	-10
				みよし市	23	33	-10

② 転入超上位 5 市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
豊田市	146	81	65	豊田市	162	73	89
刈谷市	178	122	56	刈谷市	181	113	68
知立市	72	44	28	岡崎市	92	65	27
豊川市	31	11	20	安城市	71	50	21
半田市	24	9	15	一宮市	26	14	12

(資料) 住民基本台帳

(2) 都道府県別

① 転出超上位 5 市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
愛知県	1,755	1,801	-46	神奈川県	33	49	-16
東京都	65	104	-39	千葉県	17	31	-14
神奈川県	19	47	-28	福島県	1	14	-13
静岡県	51	61	-10	宮崎県	3	13	-10
宮崎県	8	18	-10	秋田県	2	9	-7
				東京都	71	78	-7
				愛媛県	3	10	-7

② 転入超上位 5 市町村

2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
三重県	69	55	14	愛知県	1,821	1,770	51
京都府	20	10	10	岐阜県	89	59	30
奈良県	11	3	8	大阪府	59	34	25
広島県	12	7	5	三重県	68	50	18
熊本県	9	5	4	静岡県	49	37	12
岐阜県	82	78	4				
富山県	12	8	4				
千葉県	27	23	4				
北海道	18	14	4				

【参考】

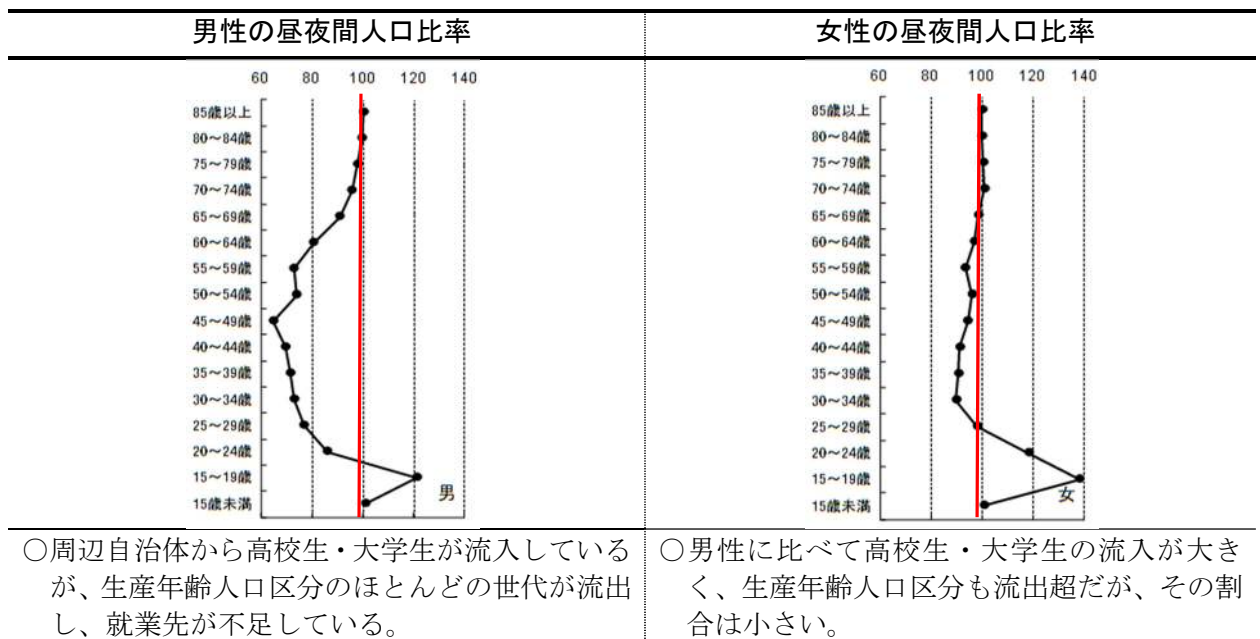
2012年				2013年			
	転入	転出	社会増減数		転入	転出	社会増減数
首都圏	119	188	-69	首都圏	137	180	-43
近畿圏	88	72	16	近畿圏	116	73	43

※首都圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

近畿圏：滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県

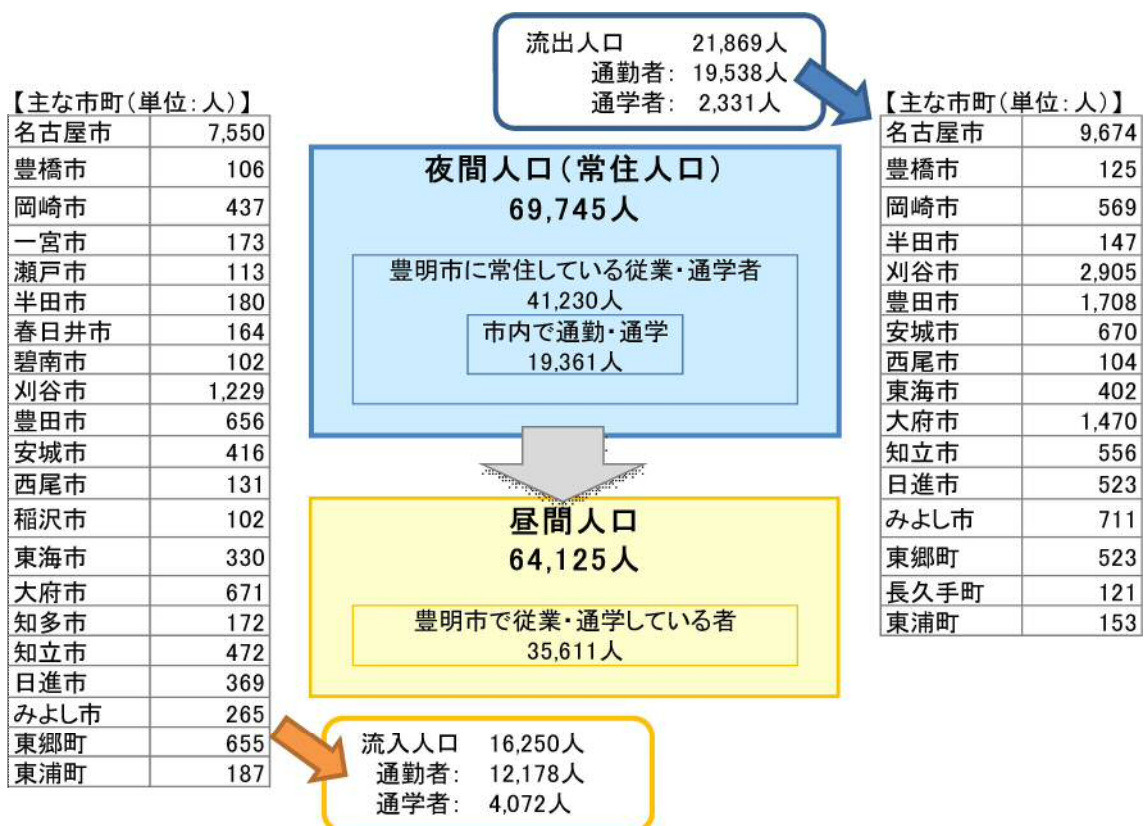
(資料) 住民基本台帳

9. 豊明市の昼夜間人口比率（2010 年）からみた要因分析のイメージ



（資料）国勢調査

10. 豊明市の昼間及び夜間人口等の状況（2010 年）



※通勤者：15歳以上就業者、通学者：15歳未満通学者を含む通学者

（資料）国勢調査